

第1回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 読書部会 次第

令和7年6月23日（月）

午後2時00分～午後4時00分

学びピア21 5階 研修室2

- 1 新委員の紹介 《資料1》
- 2 第2回全体会における意見及び今後の方針 《資料2》
- 3 3分野計画の評価について 《資料3～6》
 - (1) 活動指標管理表・施策評価シート（令和6年度実施分）
 - (2) 評価体系・評価基準
 - (3) これまでの評価実施状況
- 4 新計画策定に向けたアンケート質問項目について 《資料7-1～7-2》
《参考1～参考3-2》
- 5 質疑応答・意見交換
- 6 今後の予定
 - (1) 第2回 読書部会
日時：令和7年7月下旬～8月中旬
主な議題：読書分野における評価結果、アンケート質問項目の決定
 - (2) 第3回 全体会
日時：令和7年8月下旬～9月
主な議題：各部会における審議結果の共有、全体としての意見調整

【配布資料】

資料 1	足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿
資料 2	第 2 回全体会における意見及び今後の方針
資料 3	足立区読書活動推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分）
資料 4	足立区読書活動推進計画 施策評価シート（令和 6 年度実施分）
資料 5 - 1	足立区文化・読書・スポーツ推進計画 評価体系
資料 5 - 2	立区文化・読書・スポーツ推進計画（2 次・3 次評価） 評価基準
資料 6	足立区読書活動推進計画 評価実施状況
資料 7 - 1	アンケート質問項目検討表（事務局案・16 歳以上用）
資料 7 - 2	アンケート質問項目検討表（事務局案・小 5・中 1 用）

（参考）

参考 1	文化・読書・スポーツに関するアンケート調査について
参考 2 - 1	令和 3 年度 アンケート調査項目一覧（16 歳以上用）
参考 2 - 1	令和 3 年度 アンケート調査項目一覧（小 5・中 1 用）
参考 3 - 1	令和 3 年度 アンケート調査票（16 歳以上用）
参考 3 - 2	令和 3 年度 アンケート調査票（小 5・中 1 用）
参考 4 - 1	足立区文化芸術推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分）
参考 4 - 2	足立区運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分）
参考 5 - 1	足立区文化芸術推進計画 施策評価シート（令和 6 年度実施分）
参考 5 - 2	足立区運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和 6 年度実施分）

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿

区分	氏名	役職・団体等	部会
学識経験者 【会長】	いわ なが まさ や 岩 永 雅 也	放送大学 学長	-
学識経験者 【部会長】	にし おか たつ ひこ 西 岡 龍 彦	東京藝術大学 名誉教授	文化芸術
	こ いずみ ひろし 小 泉 ひろし	足立区議会議員	文化芸術
	おぎ の み え こ 荻 野 美恵子	東京都盲人福祉協会 女性部会長	文化芸術
	か さい たか ゆき 葛 西 啓 之	株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長	文化芸術
	そげ じま けん 傍 嶋 賢	SOBAJIMA STUDIO 代表	文化芸術
	た じま のぞみ 田 島 のぞみ	区民（公募）	文化芸術
学識経験者 【部会長】	はら だ たか し 原 田 隆 史	八州学園大学 教授	読書
	かわ むら みこと 川 村 みこと	足立区議会議員	読書
	こう そ と き こ 高 祖 常 子	子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント	読書
	た ぐち みき と 田 口 幹 人	合同会社未来読書研究所 代表	読書
	なが おき りゅう じ 長 沖 竜 二	図書館総合展運営委員会 事務局長	読書
	なか の り さ 中 野 理 紗	区民（公募）	読書
	ふる せ きよ み 古 瀬 清 美	区民（公募）	読書
学識経験者 【部会長】	みぞ ぐち のり こ 溝 口 紀 子	日本女子体育大学 教授	運動・スポーツ
	いとう のぶゆき 伊藤 のぶゆき	足立区議会議員	運動・スポーツ
	き むら じゅん べい 木 村 潤 平	パラリンピックトライアスロン選手 （一般社団法人ChallengeActiveFoundation 代表理事）	運動・スポーツ
	た なか ひろ子 田 中 ひろ子	公益財団法人足立区スポーツ協会 会長	運動・スポーツ
	はし やま たけし 栢 山 猛	株式会社サンベルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長	運動・スポーツ
	なか むら しげ お 中 村 重 男	区民（公募）	運動・スポーツ

第 2 回全体会における意見及び今後の方針

1 現在の 3 分野計画の評価について

No	意見	今後の方針
1	<過去の評価資料の提供について> 今後の評価にあたり、過去にどのように助言や評価がなされ、それに対してどのように対応がなされたか、といった資料についても、提供していただきたい。 【中村委員（公募区民）】	令和 3～5 年度の評価報告書（議会報告済み）に記載された「委員会からの助言」「助言に対する区の対応」を分野ごとに整理のうえ、第 1 回部会の開催前に情報提供する。
2	<他の分野への意見について> 今後の評価にあたり、自分が所属する部会（分野）以外の他の分野へも、意見を出していきたい。 【田島委員（公募区民）】	各部会の議論の中では、他の部会に属する委員から提出された意見についても、部会の中で取り上げ、議論の参考としていく。
3	<令和 8 年度目標値の考え方について> 事業により、令和 8 年度目標値が令和 7 年度目標値を下回る場合があるが、どのような考え方によるものなのか。 【岩永会長】	令和 8 年度目標値は、現在の計画の中間改定時に設定し、計画期間中は固定している。 令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、必要により、見直しを検討していく。
4	<評価調書以外の情報提供について> 今後の評価にあたり、評価調書以外にも、情報提供をいただきたい。 【田島委員（公募区民）】	今後、パンフレットやチラシなどの参考資料について、要望に応じて適宜提供していく。
5	<指標の追加について> 今後の評価にあたり、必要により、新たな指標の追加も検討するべきではないか。 【中村委員（公募区民）】	令和 6 年度実績の評価は、現在設定している指標で実施する。 令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、指標の追加も含め、見直しを検討していく。
6	<評価体系資料の改善について> 事務局と推進委員会の役割に、やや分かりにくい点があるため、修正をお願いしたい。 【古瀬委員（公募区民）】	修正のうえ、改めて提供する。

2 新しい3分野計画の策定に向けたアンケート調査について

No	主な意見	今後の方針
1	<対象者数について> 対象者数を8,000件から3,000件に減らすとのことだが、有効回答数が約35%であることを踏まえて、分析に問題は無いのか。 【高祖委員（有識者）】 アンケート調査の性質上、対象者数に関わらず、どうしても偏りは発生する。 対象者数を減らすことで、1つ1つの集団が小さくなり、偏りが際立ってしまう可能性もあるが、分析方法を工夫することで、技術的にクリアできると考えている。 【岩永会長】	対象者数については、当初の想定どおり、3,000件で実施する。
2	<実施方法について> 実施にあたり、紙とQRコードの併用を検討してみてもどうか。 【高祖委員（有識者）】	令和3年度実施時は、紙とQRコードを併用していた。 今回も、同様の方法による実施を検討していく。
3	<調査票の質問順について> 質問順についても、検討範囲となるか。 【長沖委員（有識者）】	質問順については、部会での議論を踏まえて、検討していく。
4	<アンケート目的の記載について> 調査票にはアンケート目的が記載されていないが、回答者への分かりやすさを踏まえ、記載したほうがよいのではないか。 【しづや委員（区議会議員）】 アンケート調査では、回答者の回答内容に影響を与えないよう留意する必要もある。 調査票に記載するか別刷りとするか、また、何をどの程度まで記載するかについては、部会だけではなく、全体会で検討すべきだと考える。 【岩永会長】	令和3年度実施時は、アンケート目的を別刷りで封入していた。 今回、どのように実施するかについては、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。

No	主な意見	今後の方針
5	<外国籍・障がい者への対応について> 外国籍の方への配慮といった視点から、調査票ヘルビを振るだけではなく、例えば、3か国語を用意するといった対応も必要なのではないか。 【大竹委員（区議会議員）】 障がい者の方への調査については、障がいの状況により課題が異なるという点も考慮する必要があるのではないかと。 【古瀬委員（公募区民）】 外国籍の方や障がい者の方は、全体から見ると、やはり非常に数が少ない。 量を取るアンケートで、何種類も調査票を用意するよりも、1つ1つのテーマや問題について、深く話を聞くことができるヒアリング調査の方がよい、という考え方もある。 【岩永会長】	外国籍の方・障がい者の方への対応については、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。

3 アンケート調査に係る有識者の出席について

No	主な意見	今後の方針
1	<外部有識者の出席について> 推進委員会としての議論を深め、より良い結果を導いていくため、今後、放送大学次世代教育研究センターの森村特命研究員に、審議会へ出席を求め、意見を聴いていきたい。 【岩永会長】 ※ <u>足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条3、及び第8条による審議の結果、出席委員の過半数の賛成を得たため、推進委員会として決定</u>	推進委員会の決定を受けて、今後、必要により、森村特命研究員へ、審議会への出席を求め、意見を聴いていく。

※ 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例（抜粋）

（第6条3）

委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

（第8条）

委員会は、必要があると認めるときは、委員以外のものの出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

資料3

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課		
1 生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する	1-1 文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する	1	継続	「あだちはじめてえほん」事業の実施	配付率	3～4か月児健診の受診者に対して絵本を配付した割合（算出式 A÷B） A 3～4か月児健診時に絵本を配付した冊数（現状値 2,922冊）、B 3～4か月児健診の受診者数（現状値 2,943人）	99.5%	99.7%	99.6%	99.4%	100%	99.2%	A	【総括】 昨年度から横ばいで推移し、目標値の100%には若干届かなかった。区内の各保健センター等での読み語りと併せて、引き続き読書に親しむ機会を作っていく。 【事業の目的（施策への貢献）】 乳幼児の読書習慣の基礎を築くとともに、保護者など子どもに関わる周りの大人に対して読み語りの大切さを伝える。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 乳幼児期から子どもや保護者が本に親しむ機会として重要であるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 1 あだち広報 2 図書館ホームページ 3 図書館、子育てサロン、保健センターなどの対象者が利用する施設での周知	100%	派遣職員が絵本の配付現場で中央図書館司書のOJTを受け、保護者に配付絵本の特徴を説明し、その子にとって適切な絵本を選択できるようにサポートする。	100%	中央図書館 読書活動推進係		
						1歳6か月児健診の受診者が、別途区内図書館などの引き換え場所で絵本を引き換えた割合（算出式 A÷B） ※行政評価指標（4177読書活動推進事業） A 1歳6か月児健診受診者が絵本を引き換えた冊数（現状値3,390冊）、 B 1歳6か月児健診受診者への引換券送付数（現状値 5,228人）	64.8%	55.7%	63.4%	67.5%	80.0%	81.9%	A	【総括】 昨年度から●●ポイント上がって●●%となり、目標を達成した。令和6年4月から、中央本町・東部の2センターにて直接配付を開始し、当該2センターの引換率が大幅に改善したことが要因となっている。 【事業の目的（施策への貢献）】 乳幼児の読書習慣の基礎を築くとともに、保護者など子どもに関わる周りの大人に対して読み語りの大切さを伝える。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 乳幼児期から子どもや保護者が本に親しむ機会や、区立図書館や子育て関連施設に関心をもってもらう機会として重要であることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 図書館ホームページ、あだち広報により、引き換え施設を周知した。	85.0%	派遣職員が絵本の配付現場で中央図書館司書のOJTを受け、保護者に配付絵本の特徴を説明し、その子にとって適切な絵本を選択できるようにサポートする。 引換方法は当面現在の運用を継続していきながら、引き続き引換率の向上を図っていく。	85.0%			
		2	継続	幼稚園、保育園、こども園における読み語りの推進	実施率	私立幼稚園（46園）における、本の読み語り実施率（算出式 A÷B） A 実施園数 B 総園数	34.0%	44.0%	44.0%	24.5%	30.0%	89.1%	A	【総括】 日常保育の中で絵本の読み語りをしている園は令和5年度に比べ、私立幼稚園で64.6ポイント、その他の園で11.4ポイント増加（回答園のみでは100%の園で実施）し、いずれも目標を上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 子どもが乳幼児期から絵本に親しみ、絵本を好きになり、読書習慣の基礎をつくる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもたちの様子や活動、目的などにあわせて様々な取組みが行われている。保育の中で、毎日絵本に触れることが日常的となり、保育者の読み語りへの意識も高まっていると思われる。生涯にわたる読書習慣の定着にむけ、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 園での取り組みを園だより・クラスだよりや掲示等で保護者に周知している。また、日常の保育の中での読み語りの様子を写真や動画等を使い、保護者に周知した園もある公立園では保護者会で保育者が保護者に読み語りをしたり、絵本を紹介したりする機会をつくり、絵本の魅力を伝えている。	90.0%	絵本環境の見直しや充実を図る。保育者の研修を継続し、技術向上を図ること で、子どもたちが絵本の楽しさに気づけるようにしていく。	90.0%	子ども政策課 子ども施設指導・支援課		
						公立保育園、区立こども園、私立保育園（158園）における、本の読み語り実施率（算出式 A÷B） A 実施園数 B 総園数	83.4%	89.2%	89.2%	79.7%	85.0%	91.1%	A	100.0%	100%					

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

資料3

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		3	継続	幼稚園、保育園、こども園文庫の貸出の推進	実施率	公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園における、園文庫の貸出実施率（算出式 A÷B） A 実施園数 B 総園数	41.0%	32.0%	38.2%	39.1%	42.0%	60.8%	A	【総括】 昨年度から21.7ポイント増加し、目標を上回った。区立園では100%の園で貸し出しを行っている。子どもの年齢や園の状況にあわせて工夫して行っており、保護者向けの本の貸し出しや地域の親子への貸し出しを行っている園もある。 【事業の目的（施策への貢献）】 1 貸出の実施により、保護者が子どもの成長発達にあった良質の絵本を知り、家庭で読み語りのきっかけにつなげる。 2 絵本を通じた親子のふれあいにより、子どもの愛着形成等につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 保護者が絵本に触れ、親子で読み語りを実施する中で、絵本の大切さに気づく機会になっていることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 各園で貸出の方法について保護者に周知している。読書通帳や園独自の貸し出しカードを利用したり、おすすめ絵本の紹介や読書の感想を紹介したりしている。	61.0%	各園での園文庫の貸出コーナーの整備や、貸出方法の工夫を行い、家庭において親子で絵本に触れる機会を増やしていく。	49.0%	子ども政策課 子ども施設指導・支援課
		4	継続	ボランティア等によるおはなし会の開催	実施率	公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園における、ボランティア等によるおはなし会の実施率（算出式 A÷B） A 実施園数 B 総園数	14.3%	3.9%	9.7%	11.6%	14.0%	19.6%	A	【総括】 昨年度から8ポイント増加し、目標を上回った。図書館職員によるお話し会を実施する園が増加している。図書館職員だけでなく、保護者や大学生のボランティア、地域の読み語り団体など多岐にわたっている。 【事業の目的（施策への貢献）】 おはなし会を通じて子どもが絵本や物語の楽しさを知ること、乳幼児期からの読書習慣の形成を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもが様々な大人と関わりながら、多様な読み語りの体験をし、絵本を楽しさに気付く重要な機会であり、さらにボランティア団体が活躍できる場、地域との連携を深める役割としても、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 活動に関する内容を園だより・クラスだよりや掲示等で保護者に周知している。	20.8%	さまざまな団体との連携により、おはなし会を開催し、さまざまな体験ができるようにする。	22.0%	子ども政策課 子ども施設指導・支援課
		5	継続	「子育てサロン」での本に親しむ活動の充実	実施回数	子育てサロンにおける読み語りの会の回数	2,319回	1,085回	2,151回	2,924回	2,940回	3,160回	A	【総括】 昨年度から236件増え、目標値を上回った。 利用者全体に向けて、昼食前や閉室前に絵本数冊の読み語りを実施する子育てサロンが増えたことが影響したと考えられる。 読み語りでは、コロナの5類移行により、読み手や利用者同士との距離が保てる大型絵本の読み語りだけでなく、種類の多い通常サイズの絵本の中から利用者の希望に応じた絵本の読み語りを実施することができた。 また、大人向けの絵本や冊子も増やし、「ホッと一息コーナー」に設置するなど、大人も自分のために読書ができる機会を提供した。 【事業の目的（施策への貢献）】 利用者に向けた絵本の読み語りを行うことで、子どもには絵本の楽しさを、大人には読み語りを通じて子どもとふれあう機会の重要性を伝える。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 次のことから、今後も継続して事業を行う必要がある。 1 乳幼児期から絵本に親しむ機会を作り、今後の本への関わり の礎となる可能性がある。 2 親子で絵本に親しむ機会を持ってもらうことで、親子の愛着関係を育む機会となる。 【事業の周知】 1 各子育てサロンでの実施日時等をホームページにて周知した。 2 「あだち絵本シアター」の動画の周知も、引き続き実施した。	3,200回	1 引き続き各子育てサロンで、昼食前や閉室前に読み語りを実施し、目標を達成していく。 2 絵本の表紙が見えるように設置するなど、子どもが絵本を手に取りやすくしていく。 3 定期的に絵本の入れ替えを実施し、絵本に興味を持てるように働きかけていく。 4 中央図書館と連携し、「あだち絵本シアター」を通してアウトリーチでの読み語りを実施していく。	2,960回	住区推進課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

資料3

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		6	継続	子育て施設におけるおはなし会の充実	実施回数 参加者数	区内施設（保育園・幼稚園・小学校・図書館・住区センター等）における、乳幼児から小学生、親子を対象とした「読み語りキャラバン隊」によるおはなし会の回数 《【】内は参加者数》	6回 【575人】	3回 【84人】	7回 【236人】	7回 【384人】	5回 【250人】	6回 【380人】	A	【総括】 昨年度から参加者数が4人減ったが、目標値を上回った。生涯学習センターや開催希望の子どもの集まる施設などで、大型絵本の読み語りや、パネルシアター、手遊びなどを中心に行ったことが要因と考えられる。 ※ 達成度は参加者数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 区民にとって身近な施設で、本や言葉に対する子どもの興味と関心を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読み語りキャラバン隊が、公共施設以外に区内の保育園・幼稚園・図書館などに出向いて活動することで、より多くの子どもたちが楽しめ体験できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。今後も希望施設からの要望を受けた際は、開催していく。 【事業の周知】 1 広報紙「トキメキ」 2 公社ホームページ 3 ポスター・チラシ	5回 【200人】	保育園・幼稚園・図書館等での出前の希望や生涯学習センター他を含めイベント型おはなし会の活動を実施していく。なお、公社自主事業見直しにより、次の変更を行う。 1 小規模保育施設等の要望を受けて、その施設を会場とすることが多い現状に合わせ、1回あたりの参加人数を50人に変更 2 上記に伴い、令和7年度以降の目標値を5回（200人）に変更	5回 【200人】	生涯学習振興公社
		7	新規	出産前・乳児期からの読み語りの推進	発信回数	出産前・乳児期の読み語りに関する情報発信の回数	—	—	—	345回	180回	430回	A	【総括】 昨年度から85回増加し、目標値を大きく上回った。本事業は、読書活動推進計画の改定に合わせた新規事業であり、令和7年2月には、初の試みとしてプレママ・プレパパに向けた読み語りイベントを実施。子どもの発達段階に応じた適切な絵本を紹介し、出産後も親子で絵本を楽しむ機会の提供を行うことができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 妊娠期・子育て期の保護者を対象に、乳児向けの情報発信等を行い、子どもだけでなく保護者に対しても読書への関心を高めていく事業である。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 妊娠期・子育て期から保護者が本に親しみ、子どもの読書活動にも関心をもってもらう機会として重要であることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 図書館ホームページやSNS等を活用し、周知した。		関連する絵本やガイドブックをホームページやSNS等で発信していくとともに、引き続きプレママ・プレパパ向けの読み語りイベントを実施していく。	180回	中央図書館 読書活動推進係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 子どもの読書習慣につながる機会の充実	1 2 子どもの読書習慣が身に付く活動の推進	1	継続	区立図書館でのおはなし会・映画会	実施回数 参加者数	幼児から小学生までを対象にとした、おはなし会と映画会の実施回数 《【】内は参加者数》	1,268回 【20,948人】	980回 【5,026人】	1,342回 【11,877人】	1,308回 【12,857人】	1,300回 【21,000人】	1,204回 【11,979人】	A	【総括】 昨年度から実施回数は104回、参加者数は878人減少し、いずれも目標値を下回った。令和6年9月からやよい図書館が休館となったことが、全体の実施回数減の一因となったと考えられる。 ※ 達成度は参加者数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 図書館をより身近に感じてもらい、図書館の利用を促進することで、子どもの読書活動を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会に繋がっていくことから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページ、SNS等	1,300回 【21,000人】	読み語りボランティアと連携を密にし、おはなし会の円滑な実施を図っていく。事業を通じて読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着につなげていく。	1,300回 【21,000人】	中央図書館 読書活動推進係
		2	継続	出張おはなし会の実施	実施回数 参加者数	小学校で実施した、出張おはなし会の回数《【】内は参加者数》	—	131回 【3,628人】	270回 【8,803人】	195回 【6,504人】	300回 【17,000人】	187回 【6,155人】	B	【総括】 1 前年との比較 実施回数は、小学校・児童館・その他で減少となり、全体としては前年を152回下回った。一方、参加者数は、小学校・児童館で減少したものの、保育園・その他で大幅に増え、全体としては前年を381人上回った。 2 目標値との比較 その他以外は目標に届いておらず、全体として目標値を大きく下回った。 ※ 達成度は参加者数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 図書館の利用を促すことで、本や読み語りの楽しさを伝えるとともに、子どもの読書習慣の定着につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読書により子どもが言葉を学び、想像力を豊かにすることにつながることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページ、SNS等	330回 【18,000人】	出張おはなし会の事業PRのため、校長会等への情報提供を検討し、読書の楽しさを子どもたちに伝えていく。	350回 【20,000人】	中央図書館 読書活動推進係
						児童館で実施した、出張おはなし会の回数《【】内は参加者数》	—	41回 【290人】	45回 【713人】	50回 【787人】	100回 【2,500人】	46回 【757人】	C		110回 【2,800人】		120回 【3,000人】	
						子育てサロンで実施した、出張おはなし会の回数《【】内は参加者数》	—	8回 【117人】	12回 【195人】	13回 【303人】	25回 【1,700人】	20回 【313人】	A		28回 【1,800人】		30回 【2,000人】	
						保育園等で実施した、出張おはなし会の回数《【】内は参加者数》	—	55回 【555人】	67回 【1,259人】	102回 【2,237人】	130回 【2,600人】	102回 【2,629人】	A		140回 【2,800人】		150回 【3,000人】	
						その他の場所（ギャラクシティ、梅田地域学習センター、大谷田団地など）で実施した、出張おはなし会の回数《【】内は参加者数》	—	40回 【402人】	77回 【3,954人】	268回 【2,947人】	90回 【1,700人】	121回 【3,305人】	A		95回 【1,800人】		100回 【2,000人】	
						小学校・児童館・子育てサロン・保育園等で実施した、出張おはなし会の合計実施回数《【】内は参加者数》	705回 【28,312人】	275回 【4,992人】	471回 【14,924人】	628回 【12,778人】	650回 【26,000人】	476回 【13,159人】	B		700回 【28,000人】		750回 【30,000人】	
		3	継続	児童館におけるおはなし会の充実	実施回数 参加者数	児童館における、乳幼児向けと小学生向け読み語りやおはなし会の実施回数 《【】内は参加者数》	712回 【19,716人】	548回 【5,683人】	590回 【9,560人】	570回 【9,397人】	650回 【19,000人】	623回 【10,401人】	C	【総括】 昨年度から53件増加したが、目標を下回った。年間の中でイベントとして読み語りを行う児童館がある一方で、イベントや日常運営の中で実施していない児童館があることが要因と考えられる。 【事業の目的（施策への貢献）】 絵本の読み語りを行う中で、子どもには絵本を見ることの楽しさやページをめくるワクワク感、保護者には読み語りの大切さを伝えていく。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 乳幼児時期から様々な絵本に出会うきっかけづくりとして必要がある。また、小学生にとっても、職員が読んでいる姿をみることは絵本に興味を持つ契機となる。 【事業の周知】 各館で作成している毎月発行の児童館だよりや、イベント等の「お知らせ」で周知を行った。	800回 【20,000人】	1 年間の中で読み語りを予定している児童館については引き続き行ってもらい、未実施の児童館へ働きかけていく。 2 図書館や読み語りボランティアとの連携を継続する。 3 読み語りの大切さを研修、担当者会議等で周知する。未実施児童館へは年間で事業を行っている児童館の情報を共有し、1回からでも始められるようきっかけづくりをする。	1,200回 【36,000人】	住区推進課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	区立図書館との連携（区立図書館を活用した本とのふれあいやマナーの学習）	訪問回数	公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園の園児が図書館に訪問した回数	341回	197回	244回	275回	300回	338回	A	【総括】 昨年度から63回増え、目標を上回った。1園あたりの図書館の訪問回数が増加し、図書館員による読み聞かせに参加したり、キャリングバックを利用する園も増えている。図書館を利用することで、本を大切に扱ったり、公共のマナーに気づいたりする姿もみられている。 【事業の目的（施策への貢献）】 区立図書館を利用することで、図書館にある様々な絵本に触れるとともに、公共施設を使う場合の施設利用のマナーを学ぶ。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 図書館では、園にはない絵本、図鑑や大型絵本等にも触れることができ、借りた本から保育活動につながる事例も見られた。また、図書館での楽しい経験を子どもが保護者に伝えることにより、親子での図書館利用や保護者の読書活動つながることもあるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 図書館での様子を保護者に伝えたり、図書館で借りた絵本を持ち帰ったりして家庭でも楽しめるようにしている。	380回	420回	子ども政策課 子ども施設指導・支援課	
		5	継続	あだち読書通帳の活用	年間配付冊数	区立図書館や、幼稚園、保育園、こども園、小学校等で配付した、あだち読書通帳の年間配布冊数	10,667冊	35,400冊	27,751冊	24,176冊	30,000冊	25,543冊	A	【総括】 令和6年度から新たに図書受渡窓口、地域文化課にて配布を開始した。年間配布冊数は令和5年度と比べ●冊増加（24,176冊→●●冊）となったが、目標値には届かなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 読んだ本を記録することで、子どもが自ら本に向き合うよう促し、さらなる読書の習慣化を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 「読書通帳」というツールがあることで、区立図書館だけでなく幼稚園、保育園、子ども園、小学校などと連携して、読書習慣の定着を拡大していくことができるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 校長会や学校図書館支援員の研修会でPRし、学校へ周知を強化した。	30,000冊	30,000冊	中央図書館 読書活動推進係	
		実績値集計中(数値は2/1現在)																
		6	継続	放課後子ども教室における学校図書館の利用	利用校数	「放課後子ども教室」の事業の一環として、学校図書館を利用している学校数	69校	33校	54校	57校	67校	62校	A	【総括】 昨年度から10校増えたが、目標を下回った。放課後子ども教室は、多人数を受け入れることができ、児童の希望も多い校庭・体育館を主な活動場所としていることが増要因と考えられる。学校図書館の利用は目標値に届かなかったが、生涯学習振興公社所有の大型絵本の貸し出しを継続し、見守りスタッフを介して専用ルーム等に設置してある図書とともに閲覧をすすめるなど、読書へのきっかけ作りを行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 放課後子ども教室において、学校図書館を利用することにより、放課後の時間帯に読書や宿題に関連した調べ学習につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 学校図書館の活用は子どもたちの読書習慣に寄与することであるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 放課後子ども教室の利用案内、各小学校での登録案内等で、学校図書館を会場とし読書のできる場を提供していることを周知した。	67校	67校	生涯学習振興公社	

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		7	継続	放課後子ども教室における読書啓発（体験プログラム～放課後＋One～）	実施校数	「放課後子ども教室」における、読書のきっかけづくりとなる関連プログラムの実施校数	48校	33校	54校	57校	67校	62校	A	【総括】 昨年度から10校増えたが、目標を下回った。 読書啓発関連のプログラムとして、児童が読んだ本を記録する「読書の通帳」や調べ学習につながる「国旗しおり作り」、地域のボランティアによる「お話し会」などの取り組みを通して、読書へのきっかけ作りを行った。 一方、学校図書館を活動場所にしなかった放課後子ども教室では、プログラムの実施がなかったため、目標値に到達しなかったと考えられる。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域人材等の協力を得るなどして、読書啓発に関する体験の機会を提供することで、読書のきっかけづくりを行う。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読書啓発に関連する体験機会は子どもたちの読書習慣に寄与するため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 放課後子ども教室の利用案内、各小学校での登録案内等で、学校図書館を会場とし、読書および読書につながる体験プログラム等の機会提供を行っていることを周知した。	67校		67校	生涯学習振興公社

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 子どもの読書習慣につながる機会の充実	1－3 子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信	1	継続	区立図書館での親子おはなし会	参加者数	親子を対象としたおはなし会の、参加者数	18,142人	4,405人	8,945人	10,928人	15,000人	10,139人	B	【総括】 昨年度と比べ、参加者数はほぼ横ばいで目標値を下回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 親子対象のおはなし会を通じて読み語りの重要性について伝えることで、読み語りの大切さを保護者等にも伝えらるとともに、子どもの読書習慣の定着を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読み語りを通じ読書の楽しさを伝えることができ、また読書により子どもが言葉を学び、想像力を豊かにすることにつながることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 親子おはなし会について、ホームページやSNS、ミニコミ紙で周知した。	15,000人	区民が参加しやすいよう、運営方法の見直しや実施回数を増やす等の検討を行っている。	20,000人	中央図書館 読書活動推進係
		2	継続	「プレママプレパパ」のための啓発事業	配布枚数	生まれてくる子どもに読ませたい絵本・親に読書をすすめる冊子の配布枚数	19枚	0枚	0枚	0枚	4,000枚	0枚	×	【総括】 江北（R6.5から）、千住（R5.6から）、東部（R6.5から）において、ボランティアによるおはなし会を実施しているが、冊子の作成まで至らなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 各保健センター等と連携し、妊婦とパートナーに育児に役立つ本の情報や読み語りを実施することで、乳幼児期からの読書習慣の定着を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 実施によって子どもへの波及効果が期待でき、子どもの読書習慣の定着に寄与するものであることから、今後も継続して事業を行う必要がある 【事業の周知】 未実施のため、周知していない。	4,000枚	生まれてくる子どもに読ませたい絵本・親に読書をすすめる冊子の作成について検討していく。	4,000枚	中央図書館 読書活動推進係
		3	継続	年齢・成長発達に応じた図書の紹介	実施率	幼稚園（46園）における実施率（算出式A÷B） A 実施園数 B 総園数	30.1%	40.0%	40.0%	20.4%	30.0%	43.5%	A	【総括】 幼稚園では昨年度から23.1ポイント増加し、目標を上回ったが、その他の園で0.6ポイント減（区立園のみでは100%、未回答の園を除くと78.5%）であり、目標を下回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 日常保育の中で、子どもの成長発達に応じた本を園職員が選書して読み語りを行ったり、クラスだよりや絵本だより等のお知らせで保護者に図書を紹介することを通して、子どもが乳幼児期から絵本に親しみ、絵本を好きになることで、読書習慣の基礎を築く。	52.0%	成長発達にあった絵本の掲示やデジタルツールを活用した園だより・クラスだよりでの紹介、保護者会での啓発など、各園で工夫しながら興味をひく取組を実施していく。	60.0%	子ども政策課 子ども施設指導・支援課
						公立保育園、区立こども園、私立保育園（158園）における実施率（算出式A÷B） A 実施園数 B 総園数	64.3%	77.1%	77.1%	72.1%	85%	72%	A	【事業の必要性（ニーズの把握）】 年齢別に絵本を配置したり、おすすめの本を紹介することで、子どもたちの主体的な絵本選びを促し、絵本への興味を高めている。また、保護者の絵本選びの参考となり、家庭での絵本の読み語りを促すきっかけとなっているため、継続して行う必要がある。 【事業の周知】 園だよりやクラスだより、掲示等で保護者に周知したり、子どもや保護者の目に入るところに絵本を掲示したりするなど、工夫して周知している。	85.0%		100.0%	
		4	継続	地域の乳幼児と保護者へのおはなし会の開催	実施回数	公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園における、地域の乳幼児と保護者を招いたおはなし会の実施回数	188回	40回	170回	86回	200回	335回	A	【総括】 園職員による地域の子どもにむけたおはなし会は、昨年度から249回増え、目標を上回った。施設種別だと私立保育園、私立幼稚園で多く開催された。 なお、保健センターでのファミリー学級に保育士を派遣する事業は、コロナ禍の影響により、引き続き事業を中止している。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域での読み語りを通じて、親子が楽しい時間を共有し、絵本の楽しさを知る。	260回	子育て支援の機会を活用し、地域の保護者に絵本の読み語りに関する情報提供をしたり、おはなし会を開催することで、親子で読書が楽しめるようにしたりしていく。	260回	子ども政策課 子ども施設指導・支援課
						各保健センター等でのファミリー学級に保育士を派遣した「絵本の読み語り」の実施回数	38回	0回	0回	×	×	×	×	【事業の必要性（ニーズの把握）】 地域の保護者が子どもの発達に適切で良質な絵本を知る機会となるとともに、絵本を介して子育ての悩み等を気軽に保育者に相談できる場所となっていることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 各施設ごとに開催のチラシを作成し、地域の親子に配布・配信する等、周知している。			40回	

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		5	継続	小学生向け図書情報紙の配布	発行部数	子ども達へのおすすめ本リスト「おもしろい本あつまれ」の発行部数	48,000部	48,000部	48,000部	48,000部	48,000部	48,000部	A	【総括】 昨年度と同部数を発行し、目標どおりとなった。また、図書館サービスデザイン担当課と相談し、見やすさの向上のため、紙面のサイズを大きく（A4からA3に変更）した。 【事業の目的（施策への貢献）】 近年出版された児童書から、子どもの発達段階ごとに知識や読み物など、複数の分野の本を紹介することで、子どもが読書に触れる機会を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもが次に読む本を探す際に必要な情報の紹介や、本が苦手な子どもに読みやすい本の紹介ができることなどから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 小学校と図書館へリストを配布するとともに、本を検索しやすいよう図書館ホームページへブックリストを掲載する。	48,000部		48,000部	中央図書館 読書活動推進係
		6	拡充	ティーンズ向け図書情報紙の配布	発行部数	ティーンズ向け図書情報誌「ティーンズスコープ」の発行部数	26,500部	48,000部	48,000部	48,000部	46,500部	48,000部	A	【総括】 昨年度と同部数を発行し、目標値を上回った。内容面では、次の工夫を行った。 1 テーマ設定や内容について教育委員会と意見交換を行った。 2 中学校の百人一首部や、図書館を使った調べる学習コンクール審査員へインタビューを行い、中学生におすすめする本を掲載した。 【事業の目的（施策への貢献）】 春休み、夏休み、冬休み前にティーンズ向けの本を紹介することで、読書への関心を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 ティーンズに向けて本の楽しさを伝えることで、読書離れが進む10代の読書活動を推進できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページ、SNSで周知した。	46,500部	学校図書館スーパーバイザーと連携し、中学生がおすすめする本の募集を行うなど、新たな工夫を試みながら双方向による情報発信を継続して実施していく。	46,500部	中央図書館 読書活動推進係
		7	拡充	インターネットによる子ども・ティーンズ情報の提供	アクセス件数	図書館ホームページ（子ども・ティーンズコーナー）のアクセス件数	3,774件	6,209件	5,188件	3,866件	5,000件	4,651件	A	【総括】 昨年度から785回の増となったが、目標値は下回った。令和6年度は「あだち電子図書館」の新着本の紹介を、区立図書館ホームページで発信するとともに、特集ページの充実を図った。 【事業の目的（施策への貢献）】 「あつまれおもしろい本」「ティーンズスコープ」など中央図書館が発行する情報紙の内容や、乳幼児向けの本、イベント情報等をホームページ上で紹介することで、子どもたちの読書活動を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 定期的に内容を更新しながら情報発信を継続していくことで、子どもに様々な情報を届けられることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 広報紙やチラシにホームページのURLを掲載し、周知している。	6,000件	1 多くの利用者が電子書籍を楽しむよう、魅力ある特集ページの充実に努めていく。 2 子どもたちに見やすいホームページ作成とイベントでの広報誌の配布等によりPRを強化していくことで、ホームページのアクセス数増加に繋げていく。	6,500件	中央図書館 資料選定係 読書活動推進係
		8	継続	子ども一日図書館員の実施	受入人数	小学生を対象とした、子ども一日図書館員の受入人数	142人	13人	131人	147人	150人	99人	B	【総括】 昨年度から48人減となり、目標を下回った。やよい図書館が休館となった影響で全体受入れ数減の一因となっている（令和5年度は35名を受入）。 【事業の目的（施策への貢献）】 子どもに図書館で本のブッカーかけ、貸出業務、本の整理などを体験してもらうことで、図書館や本についての理解を深めてもらうとともに、読書への関心を高めもらう。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 小学生が図書館の仕事を体験して、図書館の役割や本の分類を知り、より本に親しめることが期待できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、ミニコミ紙、ホームページで周知した。	150人	各図書館において、子どもたちがより図書館に興味を持てるようなプログラムを検討していく。	150人	中央図書館 読書活動推進係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		9	継続	中学生体験学習の受入れ	受入人数	図書館でのカウンター業務等の学習を目的とした、中学生体験学習の受入人数	477人	119人	227人	486人	500人	325人	B	【総括】 昨年度から161人減となり、目標値を下回った。図書館業務を幅広く体験してもらうため、既存の図書館サービスの体験だけではなく、あだち電子図書館の案内やイベント実施に係る準備などの体験をしてもらった。 【事業の目的（施策への貢献）】 中学生の体験学習の一環として、図書館で本のブッカーかけ、貸出業務、本の整理等を体験してもらうことで、中学生に図書館や本について理解を深め、読書への関心を高めてもらう。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 引き続き実施することで、中学生が図書館に興味を持つ機会を提供できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 青少年課を経由し、各学校に受け入れを周知している。	490人	中学生が図書館の業務に興味を持ち、楽しみながら体験できるよう体験内容の充実を図る。	500人	中央図書館 管理係 読書活動推進係
		10	継続	読書週間事業の実施	参加者数	読書週間事業（ブックラリー等）の参加者数	3,282人	7,704人	3,449人	4,993人	6,000人	3,619人	B	【総括】 昨年度から参加者数が1,374人減となり、目標値を下回った。やよい図書館が休館となった影響で全体受入れ数減の一因となった（令和5年度は521名を受入）。 春の読書週間で子どもたちに人気の「恐竜」をテーマに設定し、各館でブックラリーなどのイベントを開催した。 【事業の目的（施策への貢献）】 読書通帳の活用や、本を読むと答えがわかるクイズなどの手法を使って実施するイベントを実施することで、様々な角度から子どもが本と触れ合うきっかけを作り、読書習慣の定着を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもが気軽に楽しみながら本に親しむことができる機会の提供につながるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報やミニコミ紙、図書館ホームページで周知した。	6,000人	子どもがより気軽に参加でき、楽しめる内容を検討し、参加者の増加に繋げていく。	8,000人	中央図書館 読書活動推進係
		11	継続	読書週間講演会の実施	参加者数	読書週間講演会（絵本作家の講演等）の参加者数 ※春・秋1回ずつ。定員150名。	230人	213人	71人	451人	270人	640人	A	【総括】 昨年度から189人の増となり、目標値を上回った。商業施設及び大型イベントの集客力を活かしたイベントを実施したことが影響したと考えられる。 1 春のイベント：公益財団法人日本補助犬協会による講演と補助犬のデモンストレーションを行い、77人が参加した。 2 秋のイベント：Aフェスタで紙芝居の実演と紙芝居作成のワークショップを実施し、563人が参加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 日常的な図書館のイベントとは異なる形で読書を楽しむきっかけを提供し、本の楽しさを知ってもらうことで、読書習慣の定着を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 講演会やワークショップなどを組み合わせることで、多様な形で読書を楽しむきっかけを提供できるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、図書館ホームページ・SNS、館内掲示で周知した。	270人	必ずしも講演会という形式にとらわれず、子どもが本に親しむきっかけとなるような事業を検討していく。	270人	中央図書館 読書活動推進係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 子どもの読書習慣につながる機会の充実	1－4 本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用	1	継続	学校図書館の図書資料の充実整備	国基準蔵書数を超えている学校の割合	文部科学省が示している学校図書館の基準蔵書数を超えている小・中学校の割合	97.0%	100.0%	99.0%	100%	100%	98.0%	A	【総括】 昨年度から2ポイント減り、目標を下回った。 学級数が増えたことで基準蔵書数が増加したり、棚卸による除籍により基準を下回った学校図書館があった。 改めて基準蔵書数を示し、計画的な購入・廃棄に努めるよう周知する。 【事業の目的（施策への貢献）】 学校図書館に整備すべき蔵書数を保持し、多様な分野の本に触れる機会を増やすことで、豊かな人間性の育成や学習の場としての環境を整備する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読書習慣の定着をはじめ、調べる学習への支援強化、学校図書館利活用による授業支援を行うには、図書資料の充実は不可欠である。そのため、基準蔵書数を維持し蔵書配分比率の基準に基づく環境整備を行う必要があることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 予算説明会や予算配付通知時に留意事項として蔵書率の確保と蔵書配分比率を周知した。	100%	1 学校に対して、改めて蔵書率に配慮しながら基準等に基づき適正な図書の購入、廃棄に努めるよう周知する。 2 学習用の図書の充実に向けて、冊数が不足する傾向にある小規模校への図書購入予算の加算額を拡充する。 3 選書の際は蔵書配分比率を意識し、読み物以外の学習用の図書について充実を図るよう通知するとともに、学校図書館スーパーバイザーの巡回等による助言を行っていく。	100%	教育政策課 学校支援課
		2	継続	学校図書資料の活用推進	図書分類方法を3桁分類にしている学校の割合	学校図書館の蔵書を日本十進法の2桁分類から3桁分類へ全て変更した中学校の割合	—	22.9%	45.7%	60.0%	90.0%	68.6%	B	【総括】 昨年度から約9ポイント増えたが、目標を下回った。 閉架図書、廃棄予定分などに未処理のものがあるため、35校中11校の分類変更が完了していないことが、目標値を下回った要因と考えられる。完了していない11校も9割以上は処理済みである。 【事業の目的（施策への貢献）】 蔵書を日本十進分類法の3桁分類とすることで、生徒が必要な図書をより探しやすくなる。公共図書館と同様の分類であり、義務教育後の高校・大学図書館や公共図書館の利用もスムーズに行うことができ、生涯に渡って図書館を通じた「学び」を支援する礎となる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 上記目的の他、生徒が図書の分類についての知識を得、調べ学習や図書の検索で図書館をより利用しやすくするために、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 完了した学校では、各校の図書だより等で生徒に向けて3桁分類への変更を周知した。	90.0%	作業が完了していない学校に対して、学校図書館スーパーバイザーや学校巡回司書による支援を通して年度内の変更完了に努める。	100%	教育政策課
		3	継続	学校司書・学校図書館支援員の配置	配置校の割合	学校司書配置の中学校の割合	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	100%	A	【総括】 学校司書配置の中学校の割合は昨年度と同じく100%、学校図書館支援員週4日配置の小学校の割合は昨年度から32.8ポイント増え、どちらも目標を達成した。 小学校は図書館支援員（人材派遣）を令和7年度までに全校週4日配置とする予定だが、令和6年度は目標である全体の3分の2にあたる45校の週4日配置を完了した。 中学校は学校司書（会計年度任用職員）を全校に配置している。 【事業の目的（施策への貢献）】 学校図書館の環境整備をはじめ、児童・生徒の読書活動や学習活動を支援する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 学校図書館の整備充実を図り、学校図書館の読書活動及び学習活動における利活用を教員と連携しながら促進させるためには、学校司書及び学校図書館支援員の配置は不可欠であることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 各校の学校だよりや図書だより等で、学校司書及び学校図書館支援員の業務について紹介している。	100%	1 小学校図書館支援員については、令和5年度に23校、令和6年度に22校の週4日配置を達成している。令和7年度当初に全67校全校の週4日配置を完了する。 2 週2日の学校から学校図書館整備の支援等に関する要望があった場合は、学校巡回司書の派遣を優先的に行っていく。 3 学校司書の授業における図書館活用支援の機会を増やしていくため、勤務時間を5時間から6時間に延長した。	100%	教育政策課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加	参加者数 参加率	足立区の公立小中学校に在籍する児童・生徒を対象にした、「図書館を使った調べる学習コンクール」の小学校における参加者数・参加率（参加校数÷学校数）	—	7,739人 97.1%	8,539人 98.5%	8,918人 100%	9,000人 100%	9,430人 98.5%	A	【総括】 参加者数は昨年度と比べて、小学生で512人、中学生で104人増え、目標を上回った。 参加者数が増加するとともに、作品の質の向上が見受けられた。このことは、本コンクールが児童・生徒、保護者に夏休みの取組の一つとして定着し、出品意欲が高まったことの成果である。 全国コンクールにおいて、児童・生徒の作品の8作品が「優良賞」、23作品が「奨励賞」、153作品が「佳作」を受賞した。 【事業の目的（施策への貢献）】 足立区の公立小中学校に在籍する児童・生徒を対象に、図書館を使った調べる学習コンクールの募集を通して、主体的に学ぶための関心や意欲を喚起し、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 児童・生徒の資質・能力の向上のために必要であり、公立図書館、学校図書館の活用につながることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 「図書館を使った調べる学習コンクール」作品募集チラシを配布したことにより、足立区教育委員会ホームページにおいて、児童・生徒の作品を紹介した。全国審査に出品する作品の中から足立区特別賞を選出し、児童・生徒の出品意欲向上につなげた。	9,000人 100%	1 第8回足立区「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催する。 2 図書館を使った調べる学習コンクール説明会を実施する（教員対象）。 3 足立区ホームページで、全国コンクール入賞、入選作品を公開する。 4 足立にかかわる対象を募集テーマに加え、「千住宿開宿400年特別賞」を特設する。 5 足立区特別賞受賞児童・生徒を対象とした表彰式を実施し、優秀作品を冊子化するとともに、学校図書館等への配布を行う。	8,000人 100%	教育指導課
						足立区の公立小中学校に在籍する児童・生徒を対象にした、「図書館を使った調べる学習コンクール」の中学校における参加者数・参加率（参加校数÷学校数）	—	2,493人 77.1%	2,887人 85.7%	2,734人 82.9%	2,800人 85.0%	2,838人 91.4%	A	2,800人 85.0%	2,700人 85.0%			
		5	新規	調べ学習用図書資料配送サービスの実施	配送回数 冊数 利用率	区立小学校における調べ学習用図書資料の配送回数・冊数・利用率（利用校数÷学校数）	新規	174回 6,617冊 47.8%	145回 6,509冊 54.4%	154回 7,597冊 52.2%	150回 7,500冊 60.0%	270回 11,423冊 49.2%	A	【総括】 件数（116回）、冊数（3,826冊）ともに大幅に増加し目標を上回った。図書担当教員や学校司書へのPRに加え、教育委員会と連携した夏休みの調べ学習講座の実施したことが増要因と考えられる。 一方で利用率は目標値に届かなかったため、現在利用していない学校へのアプローチが課題である。 ※ 達成度は配送冊数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 団体貸出の一環で小・中学校へ調べ学習用図書の貸し出しを配送で行うことで、児童・生徒の読書活動を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 利用する学校が増加していることから、小・中学校の調べ学習への取り組みが活発になっているため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 校長会や小・中学校教員、学校図書館司書向け研修会でPRを行った。	290回 11,600冊 70.0%	1 学校図書館スーパーバイザーと連携した講座を地域館でも実施し、児童・生徒への調べ学習支援の充実を図る。 2 学校への配送だけでなく、夏休みに合わせて区内小・中学生に向けて「調べ学習用図書」セットを区内図書館で貸出していくとともに、「調べ学習用図書」セットの内容を、随時、見直していく。	300回 8,000冊 90.0%	中央図書館 図書案内係
						区立中学校における調べ学習用図書資料の配送回数・冊数・利用率（利用校数÷学校数）	新規	17回 585冊 11.4%	41回 1,965冊 40.0%	42回 1,709冊 37.1%	50回 1,500冊 50.0%	73回 2,616冊 48.6%	A	70回 3,000冊 70.0%	100回 1,000冊 90.0%			
		6	継続	家庭への読書活動の推進	配付校数	学校（学級）だより・学校図書館だよりの配付校数	95校	104校	103校	102校	102校	102校	A	【総括】 目標を達成した。 各校も、学校だよりや学校図書館だよりを通して、新書の紹介や読書旬間の紹介などを行い、児童・生徒、保護者の読書への関心が高まっている。 「調べる学習コンクール」が広く周知されるようになり、自校の児童・生徒が受賞した作品を各種おたよりで紹介するなどの取組が広がっている。 毎月、読書の記事を掲載している学校もあり、児童・生徒、保護者の実態や学校の特色等に応じた取組を推進している。 【事業の目的（施策への貢献）】 目的は適切に設定されている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 児童・生徒に読書の週間を身に付けさせるためには、学校から保護者や地域住民等への啓発が必要と考える。 【事業の周知】 中央図書館等とも連携を図りながら、今後も家庭への読書活動の推進に向けての啓発を行っていく。	102校	1 令和6年度と同様に学校から発出する文書に、読書習慣につながる記事を掲載する。 2 中央図書館と連携しながら、保護者や地域住民等に啓発していく。 3 「調べる学習コンクール」の出品に向けた各校への周知や保護者との連携等に向けた記事を学校便り等に掲載する。	102校	教育指導課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業 番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
2 区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実	2 1 区立図書館資料の充実と活用	1	継続	図書資料の充実と選定方針の明確化	年間購入数	区民一人あたりの図書資料年間購入数	0.093冊	0.088冊	0.092冊	0.091冊	0.092冊	0.086冊	A	【総括】 図書購入数が約5%減少（令和5年度：63,155冊、令和6年度：60,157冊）し、かつ人口も増加したため、目標値を下回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 分野や利用者の年齢構成、時代の要請などを考慮して計画的な選定を進めることで、区民の学習環境や教養を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民に図書の貸出しや閲覧を行うために、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページの統計冊子（「足立区の図書館」）のページにおいて、年間の購入冊数を周知した。	0.092冊	1 区民の学習環境の整備のため、引き続き必要冊数を購入していく。 2 令和6年度に策定した「アクションプラン」に基づき、令和7年度から図書館資料の収集方針や基準の見直しを行う。	0.093冊	中央図書館 資料選定係
		2	継続	視聴覚資料の充実	蔵書数	C D ・ D V D （ビデオ）等の視聴覚資料の蔵書数	23,747点	22,829点	23,151点	23,386点	23,800点	23,626点	A	【総括】 令和5年度よりも約1%増となったが、目標値は若干下回った。「生活」や「社会問題」「教育関連」など、区民のニーズに合わせた実用的な資料を中心に購入して蔵書の充実に努めた。 なお、昨今の電子媒体の普及状況などを踏まえ、購入数は令和5年度（311点）から微減となっている。 購入数 306点 除籍数 66点 差 引 240点の増 【事業の目的（施策への貢献）】 視聴覚資料の貸出しを行うことで、区民の学習環境や教養を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民の学習環境や教養を高めるため、引き続き提供していく必要がある。ただし、購入数については、電子媒体の普及状況を注視しながら、適宜検討していく。 【事業の周知】 ホームページの統計冊子（「足立区の図書館」）のページにおいて、年間の購入冊数を周知した。	23,800点	引き続き生活に役立つ実用的な資料を中心に選定するとともに、利用者のニーズを踏まえて適切な購入数を確保していく。	23,800点	中央図書館 資料選定係
		3	継続	区立図書館展示コーナーの充実	実施回数	時事に合わせた課題や地域課題の特集展示の実施回数	1,283回	1,305回	1,640回	1,480回	1,500回	1,298回	A	【総括】 昨年度から182回の減となり、目標値を下回った。やよい図書館が休館となった影響で実施回数減の一因となっている（令和5年度は129回実施）。 内容については、全館一斉で実施する施策連携特集のほか、各区立図書館が時事等に合わせ工夫を凝らした展示を行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 子どもたちの学校生活や子育て、仕事など、主に日々の暮らしに身近なテーマの展示を実施することで、区民の読書や図書資料への関心を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 様々なテーマを設定しながら本の展示をすることで、区民の興味、関心につながりやすくなる可能性があることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 特集展示ごとにホームページやSNSで周知した。	1,500回	庁内との連携を強化し、広く特集展示のテーマを募集することで、区民の興味や関心を引くテーマを設定していく。 令和7年度から、利用者により興味を持ってもらえるよう、コーナーの名称を「図書館×〇〇特集」に変更する。	1,500回	中央図書館 読書活動推進係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	新規	電子書籍（「あだち電子図書館」）の充実	蔵書数	電子書籍（「あだち電子図書館」）の蔵書数	—	3,022冊	5,431冊	6,534冊	7,000冊	7,198冊	A	【総括】 「子ども・子育て世代」を主なターゲット層として計画的に電子書籍を収集し、蔵書の充実に努めた結果、前年度比約10%増となり、目標値を上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 WEBサイト上に「あだち電子図書館」を設け、パソコンやスマートフォンから電子書籍を読めるようにすることで、「いつでも」「どこでも」「気軽に」読書が楽しめる環境を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 図書館システムとの連携などにより、貸出回数は堅調な数値を維持していることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 - ホームページに電子書籍の特集ページを掲載している。 - 新着図書が入った際はホームページやSNSで周知している。	7,500冊	- 紙の書籍とのバランスや電子書籍の普及状況に留意しながら、引き続き蔵書の充実に努めていく。 - 電子書籍の学校授業における多人数視聴について、一定の手続きを経れば可能となったため、学校での利活用が進むよう、教員へのPRを図っていく。 - オーディオブックの導入については、引き続き市場の動向を注視し、より豊富なコンテンツの取り扱いが始まり次第、導入の可否を検討していく。	7,500冊	中央図書館 資料選定係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
2 区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実	2－2 障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備	1	継続	ユニバーサルデザインに基づく館内環境の整備	設置館数	館内案内サインの多言語化とピクトグラム表示の設置館数	5館 （区立図書館全15館中）	7館	7館	7館	8館	8館	A	【総括】 昨年度から1件増え、目標を上回った。令和6年度はやよい図書館の大規模改修にあわせ、館内案内サインの多言語化とピクトグラム表示の設置を行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 誰もが利用しやすい環境を整えることで、図書館の利用促進を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 大規模改修などの機会を捉えて館内環境を整備することで、利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得につながる可能性があることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページにて周知している。	8館	令和7年度は増設の予定はなし。 未設置の図書館については、大規模改修工事等の動向に合わせて、検討していく。 ＜今後の大規模改修の予定＞ 1 花畑図書館 令和8年度から令和9年度まで 2 新田図書館 令和9年度から令和10年度まで	15館 （区立図書館全15館中）	中央図書館 システム運用係
		2	拡充	障がい者向け図書資料宅配サービスの拡大	アクセス件数	区ホームページの該当ページ（「ハンディキャップサービス」）へのアクセス件数	－	1,393件	1,299件	1,269件	1,400件	1,109件	B	【総括】 障がい者団体等へのPRを行い登録者は微増したものの、昨年度と比較して100件以上の減となり目標値を下回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 希望の図書資料を宅配することで、身体障がいなどの理由により図書館へ来館することが困難な方の読書活動を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 登録者数及び配送回数が増加していることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページでの周知や、障がい者団体、関係所管へのPRを実施した。	1,400件	「足立区図書館サービスデザインアクションプラン」を踏まえ、障がい者団体や利用者の意見を聞きながら、ニーズを把握しサービスの改善を図っていく。 あわせて、障がい者団体等へ機会を捉えて事業のPRを行い、その中でハンディキャップサービスのホームページについても案内を行う。	1,500件	中央図書館 図書案内係
		3	継続	読書が困難な方向けの様々な図書資料の整備	年間購入数	大活字本の年間購入数	509冊	248冊	252冊	420冊	430冊	611冊	A	【総括】 一般図書と比較して流通数が限られている資料については、入手できる資料を選書したが購入数が伸びず、目標を下回った。特に点字図書については今後も大幅な購入数の増は見込めないため、令和9年度からの新計画では、目標値の見直しを検討する。 なお、「りんごの棚」などに配架するための大活字図書や布絵本については積極的に購入した。 【事業の目的（施策への貢献）】 一般的な活字図書による読書が困難な方でも利用しやすい環境を整備することで、読書バリアフリー（障がい者の読書環境の整備）を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 文化・読書・スポーツの3分野共通の課題である「共生社会の実現」に向けた取り組みとして、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページにおいて、「りんごの棚」等の案内を行っている。	440冊	1 一般的な活字図書による読書が困難な方の利用を促進するため、引き続きPRを継続していく。 2 「りんごの棚」に配架するための図書（大活字図書、布絵本、LLブックなど）について、さらなる蔵書の充実を図っていく。 3 デイジー図書については、ダウンロードや他館からの借受を積極的に活用することを検討し、必要な購入冊数を精査していく。	450冊	中央図書館 資料選定係 図書案内係
						布絵本の年間購入数	新規	0冊	50冊	45冊	30冊	45冊	A		30冊		30冊	
						LLブックの年間購入数	4冊	10冊	10冊	209冊	30冊	25冊	A		30冊		30冊	
						デイジー図書の年間購入数	31冊	12冊	17冊	13冊	30冊	15冊	C		15冊		70冊	
						点字図書の年間購入数	295冊	151冊	154冊	45冊	200冊	30冊	E		250冊		320冊	
		4	継続	外国語図書資料の充実	年間購入数	英語、中国語、韓国語、やさしい日本語図書資料の年間購入数	64冊	84冊	90冊	109冊	110冊	104冊	A	【総括】 流通が限られる中で入手できる図書資料を選書、購入した。令和5年度より5冊の減となったが、概ね目標どおりであった。 【事業の目的（施策への貢献）】 外国語図書資料や「やさしい日本語」の図書資料の充実を図ることで、読書に対する様々なニーズに対応する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 日本語を母国語としない方でも図書館を利用しやすい環境をつくるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 区立図書館全館に外国語図書コーナーを設置し、館内案内図にも表記している。	120冊	言語などに関わらず読書に親しめる環境の整備をさらに図っていくため、引き続き外国語図書等の所蔵の充実に努めていく。	140冊	中央図書館 資料選定係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		5	新規	電子書籍（マルチメディアデ イジー）の導入	蔵書数	マルチメディアデイジー 図書蔵書数	新規	36点	40点	47点	50点	51点	A	【総括】 「声のおたより」（下記参照）で継続的に周知した結果、令和5年度より4点の増（前年度比約8.5％増）となり、目標を上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 発達障がい、知的障がい、上肢障がい、視覚障がいなどのために通常の書籍を読むことが困難な方に読書の機会を提供し、読書の楽しさを伝える。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読書バリアフリー（障がい者の読書環境の整備）の推進のため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 「声のおたより」やホームページによる周知、障がい者団体等へのPRを実施した。 ※「声のおたより」：人気のある図書の情報や図書館からのお知らせを収録した録音図書。希望者に対して、中央図書館から年4回郵送している。	54点		540点	中央図書館 図書案内係

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実	2-3 区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実	1	拡充	誰もが利用しやすい図書館の環境整備	来館者数 ※行政評価指標（4168図書館管理事務）	2,731,936人	2,137,742人	2,246,445人	2,393,443人	2,596,886人	2,444,222人	A	【総括】 図書館を居場所の一つとして利用する方が増え、入館者数は4年連続増加（対前年比50,779人増）したが、やよい図書館が大規模改修のため休館していた影響もあり、目標は下回った。 「まず図書館に来てもらう」ことを目指し、子ども向けイベントの充実や閲覧席の利用環境を整えた。 【事業の目的（施策への貢献）】 誰もが利用しやすい環境を整えることで、区民の図書館利用の促進と、利用者の利便性の向上を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 図書館は従来の「地域の社会教育施設」の役割だけでなく、利用者の活動や交流を促進する「新たな居場所」としての役割も求められており、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページ・SNSで特集展示やイベント情報など、図書館の利用を促進するサービスについて周知した。	2,639,760人	令和6年度に策定した「アクションプラン」に基づき、区立図書館の見直しを行っていく。館内ルールや選書等の見直しの外、中央図書館の組織体制の見直しや、職員の意識改革のための研修等に取り組んでいく。 また、アクションプランに掲げた「本を読む人も読まない人も訪れる図書館」の実現を目指した方策の先駆けとして、中央図書館のリニューアルを令和7年度から9年度にかけて実施していく。既存の書架、窓口カウンターの撤去や内装、壁の変更等1階の全面リニューアルを行い、一人でもグループでも居心地の良い空間づくりを目指していく。	2,806,000人	中央図書館管理係
			2	継続	レファレンス機能の充実	受付件数 公開事例件数	43,287件【88件】	32,383件【211件】	36,605件【235件】	36,603件【264件】	47,000件【304件】	31,877件【322件】	B	【総括】 ホームページに区や時事に関するテーマを中心に掲載したことにより、公開事例件数は令和5年度から58件増え（前年度比約22.0%増）、目標を上回った。 一方、受付件数は昨年度から400件以上減少し、目標を下回った。生成AIなど調べるツールの多様化により、図書館でのレファレンス利用も減少傾向にあるのではないかと推察される。 ※ 達成度は受付件数で評価する 【事業の目的（施策への貢献）】 利用者の相談に応じて、調べている内容、知りたい情報が載っている資料を提供することで、利用者の調べものをサポートする。 また、利用者の調査・研究や課題解決のためにレファレンス事例を公開し、課題解決までの期間の短縮を図るとともに、図書館の利用促進につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民の読書活動を推進するきっかけになる取り組みであることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページで周知した。	38,000件【340件】	レファレンスサービスの在り方について、「アクションプラン」を踏まえて課題を整理し見直しを行う。多くの利用者のニーズに応えられるよう、フロアワークなども取り入れ利便性の向上を図っていく。	47,000件【350件】	中央図書館図書案内係
						電源設備の設置館数	新規	13館	13館	13館	13館	13館	A	【総括】 令和10年1月に移転予定の梅田図書館と、大規模改修工事の時期が未定である竹の塚図書館を除く13館に設置している。梅田、竹の塚の2館については、現時点で設置工事の実施は未定。 【事業の目的（施策への貢献）】 利用者の端末を充電できる電源を設置し、調査や学習を行いやすい環境を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 利用者が学習しやすい環境を維持するため、電源設備の提供を継続していく。 また、区立図書館15館全館で事業の目的を達成するため、大規模改修工事等の機会を捉えて、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページや館内掲示、利用案内のリーフレットにより、電源設備が利用可能な図書館を周知している。	13館	令和7年度は増設の予定はなし。 未設置の2館については、移転時（梅田図書館）や、大規模改修時（竹の塚図書）の動向に合わせて、検討していく。	15館	

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		3	継続	図書館内のWeb環境の整備	設置館数 利用者数	Wi-Fiの利用者数 ※行政評価指標（4176図書館ネットワークシステム管理事務）	48,093人	94,516人	128,674人	163,448人	171,620人	196,550人	A	【総括】 昨年度から33,102人増加し（前年度比約20%増）、目標を上回った。来館者の着実な増加やスマートフォンユーザーの増加に伴い、継続的に利用者数が増えていると考えられる。 【事業の目的（施策への貢献）】 Wi-Fiにより、図書館内で使用可能なインターネット環境を提供し、区民の学習や研究を支援する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 利用者数が毎年度増加しており、事業のニーズは高いと考えられる。 【事業の周知】 Wi-Fiの提供について、ホームページや館内掲示により周知している。	206,377人	全館でWi-Fiの提供を継続し、区民の学習環境の利便性向上を支援していく。	100,000人	中央図書館 システム運用係
						インターネット端末の利用者数	8,927人	6,411人	5,482人	6,050人	6,500人	6,188人	A	【総括】 目標値を下回ったが、利用者数は令和5年度から138人増加した（前年度比約2.3%増）。 【事業の目的（施策への貢献）】 インターネット端末及び各種オンラインデータベースを提供することで、区民の調査、研究等を支援する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 インターネット及び各種オンラインデータベースを区民が使用することにより、幅広い情報や、専門的、体系的な知識の習得が可能であるため、今後も事業を継続していく必要がある。 【事業の周知】 ホームページや館内掲示で、図書館で端末が利用できる旨を周知している。	7,500人	令和7年10月に中央図書館の指定閲覧席用を導入する座席予約システムによる、インターネット端末の予約管理の可否を検討する。座席予約システムにより予約の受付等が可能である場合には、Webからの予約や空き状況確認が可能となるよう整備し、利用促進を図っていく。	9,000人	
		4	継続	ICタグを活用した、読書、学習空間の整備	設置箇所数	区立図書館における、ICタグの設置箇所数	—	15館	15館	15館	15館	15館	A	【総括】 令和4年1月にICタグを導入し、複合施設内であれば、資料がどこでも持ち出し可能となる「どこでも図書館」の取り組みを、各館で展開している。 【事業の目的（施策への貢献）】 ICタグにより複合施設内の資料持ち運びや貸出、返却の自動化を可能とすることで、複合施設の空間の効果的活用と図書館サービスの向上を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 「どこでも図書館」の取り組みにより、読書活動及び3分野連携の推進を期待できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページや各区立図書館でのパネル設置により、周知を図っている。	15館	3分野連携事業や特集棚を活用して、複合施設内の図書館以外の場所で読書ができる場を提供していく。	15館	中央図書館全係
						図書貸出冊数	188,321冊	166,438冊	164,180冊	175,969冊	203,312冊	178,790冊	A	【総括】 区立図書館の図書貸出冊数が減少傾向にある中、図書受渡窓口における図書貸出冊数は、目標は下回ったものの、昨年度から2,821冊の増（前年度比1.6%増）となった。 商業施設3か所に設置したブックポストの利用状況（1日当たりの平均回収冊数）は次のとおりであり、令和7年3月で設置から1年経過したが、ほぼ横ばいの状態である。 1 アリオ西新井 58.5冊 2 ポンテポルタ千住 32.5冊 3 ライフ扇大橋駅前店 12.6冊 【事業の目的（施策への貢献）】 図書資料を借りやすく返しやすい環境を整備することで、利用者の利便性の向上を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民の読書活動の推進に寄与するだけでなく、未返却図書資料の発生抑制などの効果も期待できることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページのほか、館内掲示やチラシを配布し、周知を図っている。	218,395冊	4か所目の商業施設へのブックポストの設置に向けて事業者と協議を進めていく。	258,000冊	
		5	拡充	図書受渡窓口の充実・図書資料返却ボックスの設置	設置数	図書受渡窓口における、図書貸出冊数	—	—	—	3か所	3か所	3か所	A		4か所		3か所	中央図書館 管理係
						商業施設等へのブックポスト設置数	—	—	—	3か所	3か所	3か所	A					

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		6	継続	区内大学図書館との連携・相互協力	図書館数	区民が利用できる大学図書館数	4校	5校	5校	5校	5校	5校	A	【総括】 区内にある6大学のうち、図書館を設置していない東京藝術大学を除く5大学が、区民に対して大学図書館を開放している。各大学の状況は以下のとおり。 1 放送大学：区民利用可 2 東京未来大学：区民利用可 3 帝京科学大学：区民利用可 4 東京電機大学：研究目的でのみ区民利用可 5 文教大学：区民利用可 【事業の目的（施策への貢献）】 大学図書館の地域開放により、大学が有する高度な専門的知識を区民に還元する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 一般の図書館では所蔵していない学術専門書を区民に提供することから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 PR強化のため、区ホームページにて各大学図書館のリンクを掲載した。 文教大学において、一般向け講座「大学図書館を使ってみよう」を実施し、PRを行った。	5校	区内大学と連携し、区民が利用しやすい環境づくりについて協力を進めている。	5校	シティプロモーション課
		7	継続	インターネット環境も活用した図書館情報の発信	配布部数	図書館だより「かけはし」の配布部数	14,400部	10,462部	8,740部	10,053部	10,800部	10,147部	A	【総括】 昨年度から94部の増となり、概ね目標どおりであった。令和6年度は、区民の興味関心を引きやすいよう、「花火」「防犯」「二十歳の集い」など、あだち広報や区の施策と関連したテーマ設定を行った。なお、令和6年度から、中央図書館にて紙面と連動した展示を常設している。 【事業の目的（施策への貢献）】 図書館や図書資料の情報を掲載した情報紙を発行することにより、区民の読書活動の推進と図書館利用の促進を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 図書館に来館しない人に対しても本に関する情報を提供することから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 1 区立図書館ほか公共施設での配布 2 駅の情報スタンドへの配架 3 ホームページ、SNSでの発信	12,000部	1 単に図書資料を紹介するだけでなく、区の施策のPRにもつながるような紙面作りを行っていく。 2 紙面とホームページをリンクさせることにより、幅広く周知していく。 3 区立図書館内で紙面と連動した展示を行い、利用者が実際に本を手取るよう促していく。	14,400部	中央図書館 読書活動推進係
					アクセス件数	図書館トップページのアクセス件数	1,507,550件	1,760,750件	1,697,271件	1,654,044件	1,600,000件	1,688,165件	A	【総括】 令和5年度から34,121件の増となり、目標値を上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 利用者が必要とする様々な図書館情報をホームページで発信することにより、図書館を利用しやすい環境を整える。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区のホームページの中でも区立図書館のページは特にアクセス数が多く、利用者のニーズは引き続き高いことから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 広報紙にURLやQRコードを掲載することにより、周知を図った。	1,700,000件	1 ホームページにアクセスすればいつでも最新の情報が取得できるよう、タイムリーな更新を行っていく。 2 ネットワークシステムの安定稼働に向けて、システム事業者とも連携して、必要な維持・管理を実施していく。 3 令和9年1月の図書館システム更新時により利便性の高いホームページを構築できるよう、他自治体等の先進事例の情報収集を進めていく。	1,800,000件	

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
					アクセス件数	図書情報やイベント情報を発信した、SNSのアクセス件数	479,971件	788,398件	634,085件	606,032件	700,000件	321,327件	C	【総括】 図書館のイベントや刊行物のPRなどをSNSを活用し発信したが、令和5年度よりも284,705件の減（前となり、目標値を下回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 新着図書や特集展示、イベントなどの情報をタイムリーに発信することで、区民の読書への関心を高める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区立図書館の主な利用者層である子育て世代に情報を届けるために、SNSでの発信は有効な手法であることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ハッシュタグの設定やホームページへのリンク、写真やイラストの掲載を積極的に行った。		情報をタイムリーに発信するだけでなく、区民の目に止まるよう、記事の内容のブラッシュアップを図っていく。	800,000件	
		8	継続	地域学習センターミニコミ紙の配布	配布部数	図書館の最新情報等を掲載した、地域学習センターミニコミ紙の配布部数	504,000部	514,800部	528,100部	544,100部	504,000部	528,100部	A	【総括】 昨年度から16,000部減ったが、目標は上回った。 配色や文字の強調や紙面レイアウトについて、読者の見易さ向上に努めて毎月発行した。 また、講座参加などのニーズを確認しながら、小学校や幼稚園等、幅広く配布をした。 【事業の目的（施策への貢献）】 各センターの特色を活かして、講座情報や図書館のおすすめ本などのお知らせ、イベントや地域周辺の情報を掲載し、区民に役立つ情報の発信を目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 講座参加等の区民の生涯学習活動のきっかけづくりに繋がっていることから、必要な事業である。 【事業の周知】 小中学校や町会自治会等へ配付するほか、各センターホームページにおいてバックナンバーも掲載している。	504,000部	レイアウトや配色や文字の強調など見易さの向上の他、内容の充実も図ることで、引き続き、地域の特色を活かした情報発信を行っていく。	504,000部	生涯学習支援課 中央図書館

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		9	新規	綾瀬小学校学校図書館地域開放事業	利用者数	1日あたりの平均利用者数	—	—	40人	37人	50人	39人	B	【総括】 昨年度と比べて平均利用者数は2人、平均貸出冊数は10冊増えたが、目標は下回った。 定期的に新刊図書を購入したことで、利用者が本に触れ合う機会を提供することができた。 一方、絵本作家による大規模イベントや「ぐるぐる博 in アヤセ」と連携したSDGsイベント等を実施し、多くの方の参加があったが、新規利用者の獲得にはつながらなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域の子どもに「本と出会える場所」を設けることで、読書への関心を高め、乳幼児期からの読書習慣の定着を図る。	60人	1 綾瀬地域へのリーフレットの配布や委託事業者からSNSによる情報発信を行う等、周知を重点的に実施する。 2 読書に興味・関心がない方や、図書の森を知らない方でも参加できるイベント（アニメ・ゲーム等とのタイアップイベントやワークショップ・体験型イベント等）を実施することで、新規利用者の獲得を図る。	70人	中央図書館 管理係
					貸出冊数	1日あたりの平均貸出冊数	—	—	48冊	46冊	60冊	56冊	A	【事業の必要性（ニーズの把握）】 本に親しめる環境を提供することで、読書習慣の定着及び子どもたちの居場所として寄与しているため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 開設日やイベントに関する情報を、主にホームページ、区SNSで発信した。	70冊	3 既存の利用者が図書の森を継続して利用するようなサービス（蔵書構成の見直し、リピーター向けのイベント等）についても検討していく。	80冊	

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
3 読書活動を通じた人と人とのつながりの形成	3－1 読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援	1	継続	読み語り講座（入門、フォローアップ）の実施	実施回数 参加者数	入門講座の実施回数・参加者数 《【】内は参加者数》 ※行政評価指標（4177読書活動推進事業）	2回 【48人】	2回 【34人】	2回 【47人】	2回 【55人】	2回 【50人】	4回 【139人】	A	【総括】 入門講座、フォローアップ講座ともに、乳幼児、小学生とコース分けをし、それぞれ年4回開催した。各回とも定員を超える応募があり、目標を達成した。 ※ 達成度は実施回数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 読み語りの入門やフォローアップの講座を開催し、講座受講者を実際の活動につなげることで、区内各地域での読み語り活動を促進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもの読書活動を進めていくためには、区内各地域におけるボランティアの活動は欠かせないものとなっていることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページやチラシ等で周知を行っている。	2回 【50人】	活動中のボランティアを読み語り講座会場に招き、受講修了後、受講生へ声がけいただくことで、実際の活動へと繋げていく。	2回 【50人】	中央図書館 読書活動推進係
			フォローアップ講座の実施回数・参加者数 《【】内は参加者数》 ※行政評価指標（4177読書活動推進事業）	4回 【56人】	2回 【50人】	4回 【75人】	2回 【50人】	5回 【90人】	4回 【119人】	A	5回 【90人】	5回 【90人】						
		2	新規	学校図書館ボランティア養成・スキルアップ講座等の実施	講座が実際の活動に役立つと思うと答えた方の割合	アンケートで「講座が実際の活動に役立つと思う」と答えた方の割合	－	90.0%	94.8%	92.6%	100%	98.1%	A	【総括】 昨年度から5.5ポイント増となったが、目標は下回った。ボランティアに必須とされ、受講生からも要望の多い「ブッカーかけ」「読み語り」「本の修理」に関する講座を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 学校図書館ボランティアのスキルを向上させ、学校図書館の運営を向上させることで、子どもたちの学校図書館の利用促進と読書習慣の定着を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 アンケートの回答からは、受講者の満足度は高く、またモチベーション向上につながっていることが窺えるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 小・中学校を通じてボランティアに周知した。	100%	1 学校と連携し、必要な講座内容を確認しながら企画していく。 2 講座終了後にボランティアの意見交換ができる時間を設けるなど、学校を超えてボランティア同士の情報交換ができるよう工夫していく。	100%	中央図書館 読書活動推進係
3	拡充	団体登録者の利用環境の整備	登録数	団体登録の登録数	2,586団体	2,731団体	2,801団体	2,903団体	3,000団体	2,947団体	A	【総括】 ホームページや関係機関へのPR等により、登録数は年々増加している。目標値には届かなかったものの、令和6年度は、令和5年度から44団体の増（前年度比約1.5%増）となった。 【事業の目的（施策への貢献）】 10人以上で構成されている区内の官公署、学校、保育所、社会教育団体等に一度に複数冊の図書資料を貸し出しを行うことで、各団体における読書活動を推進する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 施設等に入所中で来館が難しい方など、個人での図書館利用が困難な方の読書環境を充実することにもつながることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページで周知した。また、住区推進課と連携し、区内児童館へのPRを行った。	3,000団体	1 引き続き、図書館ホームページでの周知を行う。 2 住区推進課と連携し、区内児童館へのPRを行っていく。	3,000団体	中央図書館 図書案内係		

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	あだちこどもサポーター（子どもの体験・交流活動にかかわる地域人材）の育成と活動	活動人数	「読み語りキャラバン隊」や放課後子ども教室での「読書支援サポーター」としての活動人数 ※読書支援サポーターはR5まで	33人	0人	28人	24人	24人	21人	A	【総括】 昨年度から3人減り、目標を下回った。 「読み語りキャラバン隊」の活動は、自主練習会を実施しながら、発表活動の場を提供した。 【事業の目的（施策への貢献）】 人材育成講座の修了者が自主活動サークルとして読み語りを行うことで、子どもの読書習慣の定着と地域における子どもと大人の交流の促進を図る。 また、発表活動の場を提供することで、モチベーションの維持と読み語り活動の継続につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 参加者が一斉に「考える」「笑う」「声を出す」など同調の機会を盛り込んだ体験型おはなし会のため、演者と参加者との共有体験が相互のコミュニケーションを促進する作用が働き、信頼関係を築く上でも大切な機会である。 今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 活動報告として公式フェイスブックに掲載している。	19人	「読み語りキャラバン隊」は、月一回の自主練習会の開催と、発表活動の場を提供していく。	19人	生涯学習振興公社
		5	拡充	あだち絵本シアター	実施回数 参加者数	読み語りイベントの実施回数 ≪【】内は参加者数≫	5回 【396人】	0回	2回 【266人】	4回 【817人】	5回 【1,000人】	4回 【804人】	A	【総括】 昨年度と同じ実施回数となり、目標値を下回った。令和6年度は新たな取り組みとして、ブレママ・ブレババ向けの読み語りイベントを実施した（詳細は施策1ー1、事業N○7参照）。また、例年、協賛企業と共催している読み語り公演会については、会場を西新井文化ホールに移し、過去最大規模（定員600人、参加566人）で実施した。 ※ 達成度は参加者数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 読み語りのイベントを通じて、子どもには絵本の楽しさを、大人には読み語りの大切さを伝える。 また、読み語り講座を開催するとともに、講座修了者に読み語りイベントでの実践の場を提供することで、人材の育成と活動の循環を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 毎年開催している子育てサロンでのイベントや読み語り公演は、毎回定員を超える応募があり、また一定程度リピーターも生まれていることから、区民のニーズは高いといえる。今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 プレスリリース、あだち広報、ホームページ、チラシ・ポスターなど様々な媒体を活用して幅広く周知した。	5回 【1,000人】	子育て世代が多く利用する商業施設など、新たな実施場所を開拓していく。 名称	5回 【1,000人】	住区推進課 中央図書館 読書活動推進係
						読み語り講座の実施回数 ≪【】内は参加者数≫	1回 【11人】	2回 【55人】	2回 【76人】	2回 【130人】	2回 【50人】	2回 【87人】	A	2回 【50人】	2回 【50人】			
		6	継続	学校図書館教職員研修	実施回数 参加者数	学校図書館担当教諭等へ向けた学校図書館の活用方法や図書館機能を活かした指導方法についての研修の年間実施回数 《【】内は参加者数》	2回 【191人】	3回 【312人】	3回 【306人】	2回 【187人】	2回 【204人】	2回 【224人】	A	【総括】 目標を達成した。学校図書館スーパーバイザーによる集合研修を2回実施し、9割以上の図書担当教員が参加した。加えて夏季休業中に教員向けセミナー（研修と同内容・希望参加制）を2回実施し、35人の教員が参加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 研修による学校図書館活用の基礎知識の習得に加え、図書館資料の活用や授業における調べ学習など、実践を通して学校図書館の利活用推進のために必要な知識について理解を深める。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現及び情報活用能力の育成には、様々な学習場面における学校図書館の利活用の推進が不可欠である。その中核を担う図書担当教諭が学校図書館運営に関する理解を深めるため、研修の充実に取り組む必要がある。 以上のことから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 教員向け研修資料への掲載や事前の研修通知に加え、学校図書館サポート通信により研修の内容についても周知を図った。	2回 【204人】	1 令和7年度は、学校図書館に関する専門の学識経験者に講師を依頼し、より実践的な研修を実施する。 2 上半期は小中合同、下半期は小中別で各1回、それぞれ専門の講師を招聘し研修を実施する。 3 研修の中で利活用推進校等における学校図書館活用の好事例を共有し好事例の横展開を図る。 4 令和7年度も長期休業期間等を活用したセミナーを開催し、図書担当教員以外に対しても学校図書館の学習における場面での活用方法を学ぶ機会を設定する。 5 上記の区主催の研修の他、区小・中学校教育研究会との連携により、各研究会総会における令和7年度の講演会テーマを「学校図書館の活用」とした上で、当課から講師を紹介した。今後も連携を深めていく。	2回 【204人】	教育政策課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		7	継続	読み語りに関する講習会の開催	参加者数	公立保育園、区立こども園、私立保育園、私立幼稚園における、読み語りに関する職員向け講習会の参加者数	177人	200人	109人	28人	200人	285人	A	【総括】 区立園での研修参加者数が昨年度から211人増加（全体では257人増加）し、目標を上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 絵本を通して育まれる子どもの姿を専門職として学ぶことで、保育の実践に活かす。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読み語りの目的、重要性を保育者が学び続けることは、子どもや保護者の読書活動に反映されていくため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 ホームページ等で研修・講座開催を周知している。	330人	研修の情報を早めに広く周知する等、各園が計画的に参加できるようにする。読み語りの技術だけでなく、より豊かで創造的な保育活動につなげ、家庭への啓発に活かす等、保育者自ら読書活動を推進するきっかけとなるようにしていく。	380人	子ども政策課 子ども施設指導・支援課

読書活動推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
3 読書活動を通じた人と人とのつながりの形成	3 2 読書活動推進のための多様な連携と協創の推進	1	新規	区立図書館が行う「読書をきっかけに人がつながる事業」の実施	実施回数	本や読書をきっかけとした、コミュニケーションを図れるよう働きかける事業の実施回数	—	12回	137回	145回	150回	177回	A	【総括】 昨年度から32回の増となり、目標を上回った。令和6年度は出張によるおはなし会やワークショップを通じ、コミュニケーションを図れるよう働きかける事業展開を行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 読書に関するイベント等をきっかけに、新たな交流や人と人のつながりなど、区民のコミュニケーションの形成に寄与する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 読書が個人での活動にとどまるのではなく、読書をきっかけとして人々の交流が生まれる事業である。 【事業の周知】 ホームページやSNS、チラシ等で周知した。	150回	「アクションプラン」に基づき、多様な人々が、本や情報を仲立ちとして、楽しくつながり、交流が育まれるような仕掛けや場所を創出するような事業を展開していく。	150回	中央図書館 読書活動推進係
		2	継続	文化・読書・スポーツ活動協創推進事業	実施回数 参加者数	・文化・読書分野と連携した、協創推進事業の年間の総実施回数 《【】は参加者数》 ・R1新規事業 ・当面の目標として、複合施設のある地域学習センター全館での実施を目指します。	—	752回 【5,954人】	1,130回 【12,236人】	1,016回 【9,781人】	1,055回 【10,269人】	1,044回 【11,773人】	A	【総括】 20～40歳代の子育て世代の父親、母親を主な対象として、全15施設で実施した。 実施回数では目標値をやや下回ったが、参加者数では目標値を上回る結果となり、R8目標値からはまだ乖離もあるものの、各分野に親しむ人の増には一定程度寄与できたと考える。 【事業の目的（施策への貢献）】 文化・読書・スポーツ分野計画に基づき、従来型の分野別のアプローチだけでなく、「読書×スポーツ」「読書×文化」「スポーツ×文化」など、それぞれの施設利用者が異なる分野へに関心・行動を広げる働きかけに取り組んでいくことで、共通理念である「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」の実現を目指す。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 「読書をしている層は、文化やスポーツに関しても一定の興味・関心があり、きっかけがあれば文化・スポーツ分野の行動に移る可能性がある」というアンケート分析結果に基づき、図書館や地域学習センターなどの身近な施設で気軽に親しめる事業であり、引き続き、必要である。 【事業の周知】 あだち広報、ホームページ、チラシ、豆の木メール、SNS（LINE、X（旧Twitter）、Facebookなど）、ミニコミ紙などにより周知している。	1,096回 【12,362人】	1 本事業の安定した継続実施に努めるとともに、多種多様な体験機会の提供に取り組んでことで、区民の関心・行動の拡大、向上を目指す。 2 定期的な連絡会の開催により、意見交換、情報共有の機会を確保するなど、指定管理者と密に連携を取りながら、事業に取り組んでいく。 また、参加者アンケートの分析結果なども踏まえ、直接的（声かけ）、間接的（SNS）な情報発信やプログラムの実施方法などを工夫、改善し、各分野に親しむ人の更なる増を目指す。	3,360回 【33,600人】	地域文化課 生涯学習支援課 スポーツ振興課 中央図書館
		3	新規	アウトリーチ事業	実施回数 参加者数	図書館にこない人・来られない人に対して実施した読書活動推進事業の回数	—	10回 【620人】	104回 【1,645人】	255回 【9,355人】	60回 【1,800人】	264回 【4,319人】	A	【総括】 昨年度から9回の増となり、目標を上回った。生物園での紙芝居ショー（興本図書館）や都市農業公園での出張図書館（鹿浜図書館）などを積極的に実施した。 ※ 達成度は実施回数で評価する。 【事業の目的（施策への貢献）】 協創力を発揮して民間施設や出版社、書店などと連携した活動を実施することにより、普段本を読まない人、読書に関心がない人に向けて、まちで本にふれ読書の楽しさを知る機会を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 図書館以外の場所に向向いていくことで、図書館を利用しない人に対して本の楽しさを伝えられることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報やホームページ、SNSで周知した。	60回 【1,800人】	区民の身近な場所に出向き、本の楽しさを伝える事業を展開していく。	60回 【1,800人】	中央図書館 読書活動推進係

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-1	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。加えて、本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。
区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	親子で一緒に本を読んでいる割合（3歳児）							
指標の定義	3歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	86.9%	実績値	86.9%	91.5%	89.7%	91.5%	89.2%	97.0%
目標値（R8）	97.0%	達成率	89.6%	94.3%	92.5%	94.3%	92.0%	

指標名②	親子で一緒に本を読んでいる割合（4・5歳児）							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	75.5%	実績値	75.5%	77.1%	79.6%	80.0%	77.5%	80.0%
目標値（R8）	80.0%	達成率	94.4%	96.4%	99.5%	100.0%	96.9%	

指標名③	1か月間に本を読んだ就学前児童の割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	83.9%	実績値	83.9%	77.2%	77.6%	74.8%	73.4%	88.0%
目標値（R8）	88.0%	達成率	95.3%	87.7%	88.2%	85.0%	83.4%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	9	0	0	0	0	0	9
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（91.5%→89.2%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（97.0%）を下回った。
指標②実績値（80.0%→77.5%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）も下回った。
指標③実績値（74.8%→73.4%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（88.0%）も下回った。

【要因分析】

- 指標①②については、図書館館内でのおはなし会やアウトリーチ事業によって気軽に絵本を楽しめる環境を提供しているが、乳幼児期に本に親しむ大切さをさらにPRしていくことが重要であると考えられる。
- 指標②については、各保育・教育施設での読み語りや食育月間に合わせた図書館での啓発品の配付と併せた特集本の展示、年齢に合わせた本の紹介等をさらに推進していくことが重要であると考えられる。

【その他実績等】

- 「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）において、健診対象者約4,000人に絵本の配付とあわせて仮登録した貸出カードを配付し、図書館への来館につなげた（216人が図書館で本登録）。
- 妊娠期・子育て期から保護者が本に親しみ、子どもの読書活動にも関心をもってもらう機会として、プレママ・プレパパ向けの読み語りイベントをR6年度に初めて実施した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 親子で本に親しめる環境を提供するため、アウトリーチ事業のほか、各図書館や保育園、子育てサロン等におけるおはなし会を継続して実施していく。
- 「あだちはじめてえほん」事業について、1歳6か月児の絵本引換率の向上を図るため、引換率の低い保健センター2か所（中央本町、東部）での出張配付を継続していきながら、引き続き引換率の向上を図っていく。

【中長期の取り組み】

- 親子で一緒に読書への関心を高めていくための事業として、妊娠期・子育て期から保護者が本に親しみを持ってもらえる機会の提供をイベント等を通じて今後も継続して行っていく。
- 「あだちはじめてえほん」事業については、事業開始から10年が経過したことを踏まえ、絵本のテーマ等に留意しながら、配付絵本の一部入替についても検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	—

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標①②の実績値が僅かであるが減に転じたことは残念である。保護者が本に親しみ、子どもの読書活動にも関心を持ってもらう機会の提供を、妊娠期・子育て期から積極的に実施して欲しい。

イ 計画改定に伴い新たに盛り込んだプレママ・プレパパ向けの読み語りイベントを、R7年2月に早速実施したことは評価に値する。引き続き内容の充実を図るとともに、まだ子どもの読書への関心が

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 長年低迷していた「あだちはじめてえほん事業」の1歳6か月の引換率が、出張配付の実施によって大幅に向上したことは評価できる。R7年度からは、すこやかプラザの開設により江北での引換率が向上することが見込まれるため、引き続き状況を注視しながら引換率の向上を図ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-2	子どもの読書習慣が身に付く活動の推進
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

子どもの頃からの読書経験は習慣として将来に引き継がれる。幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会を作っていく。
そのために区立図書館や幼稚園、保育園、こども園、小中学校、児童館などの子育て施設で、おはなし会や朝読などの読書活動を推進する。また、図書館の利用を通じて将来にわたる読書機会の提供に努める。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	1か月間に本を読まなかった児童の割合（小学5年生）【低減目標】							
指標の定義	1か月間に本を読まなかった小学校5年生の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	23.7%	実績値	23.7%	24.2%	26.9%	29.7%	29.3%	23.0%
目標値（R8）	23.0%	達成率	103.0%	105.2%	117.0%	129.1%	127.4%	

指標名②	1か月間に本を読まなかった生徒の割合（中学2年生）【低減目標】							
指標の定義	1か月間に本を読まなかった中学校2年生の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	39.5%	実績値	39.5%	38.7%	36.5%	40.4%	42.7%	39.0%
目標値（R8）	39.0%	達成率	101.3%	99.2%	93.6%	103.6%	109.5%	

指標名③	小学生に占める登録者割合							
指標の定義	（算出式） $A \div B$ A 小学生の学齢の区立図書館登録者数計 B 足立区の小学生の児童数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	45.8%	34.5%	38.9%	40.3%	50.0%
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	91.6%	69.0%	77.8%	80.6%	

指標名④	中学生に占める登録者割合							
指標の定義	（算出式） $A \div B$ A 中学生の学齢の区立図書館登録者数計 B 足立区の中学生の生徒数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	80.9%	40.1%	46.9%	52.3%	85.0%
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	95.2%	47.2%	55.2%	61.5%	

指標名⑤	児童書の貸出冊数							
指標の定義	区立図書館における、児童書の貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	1,187,936冊	実績値	1,187,936冊	1,227,774冊	1,103,971冊	1,027,950冊	946,148冊	1,280,000冊
目標値（R8）	1,280,000冊	達成率	92.8%	95.9%	86.2%	80.3%	73.9%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	2	2	0	0	0	12
%	67%	17%	17%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（29.7%→29.3%）はR5年度からほぼ横ばいで、R8年度の目標値（23.0%）に届かなかった。
 指標②実績値（40.4%→42.7%）はR5年度から増となり、R8年度の目標値（39.0%）に届かなかった。
 指標③実績値（38.9%→40.3%）はR5年度を上回ったが、R8年度の目標値（50.0%）は下回った。
 指標④実績値（46.9%→52.3%）はR5年度を上回ったが、R8年度の目標値（85.0%）は下回った。
 指標⑤実績値（1,027,950冊→946,148冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（1,280,000冊）も下回った。
 ※ 指標①、②は低減目標。

【要因分析】

（1）指標⑤については、貸出数減少の要因として、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及が影響していることが考えられる。なお、児童書だけではなく一般書も貸出数が減少し続けている。

【その他実績等】

（1）出張おはなし会（628回・12,778人→476回・13,159人）や読み語り講座（4回・105人→●回・105人参加）など、昨年度の参加人数を上回った。
 （2）あだち読書通帳について、配布場所の拡大や司書教諭及び学校図書館支援員への周知の強化により、R5年度と比べて配付冊数が大幅に伸びた（親子用3,676冊、小学生用1,693冊の増）。

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1ー3	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

区立図書館や幼稚園等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合							
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	41.6%	実績値	41.6%	51.7%	52.0%	56.3%	54.1%	80.0%
目標値（R8）	80.0%	達成率	52.0%	64.6%	65.0%	70.4%	67.6%	

指標名②	親子で一緒に本を読んでいる割合 ※施策1-1の再掲							
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

指標名③	1か月間に本を読んだ就学前児童の割合 ※施策1-1の再掲							
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	4	0	0	0	2	13
%	54%	31%	0%	0%	0%	15%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（56.3%→54.1%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）は下回った。

【要因分析】

指標①については、「あだちはじめてえほん」におけるチラシでのPRや、学校だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みを行っているものの、本に興味のない保護者へ向けたPRが十分でなかったと考えられる。

【その他実績等】

- 「あだちはじめてえほん」事業のアンケートで、「ほとんど本を読まない」保護者の割合は、令和5年度と比較し、ほぼ横ばいであった（3・4か月児：37.5%→40.5%、1歳6か月児：44.5%→41.9%、3歳児：40.7%→41.6%）。
- 紙面の見やすさ向上のため、R6年度から、小学生向け図書館情報紙「あつまれおもしろい本」のサイズをA4版からA3版に拡大した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 乳幼児については、アウトリーチ事業をはじめ、親子で楽しめる本の紹介やおはなし会の実施等により親子で読書に親しめる機会を増やしていく。
- 小・中学生については、読みやすい本や手に取って読んでみたくなる本を「あつまれおもしろい本」「ティーンズスコープ」等で紹介し、普段読書をしない生徒・児童へ本に親しむきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

- 「身近な大人の読書冊数との関連性」を周知するチラシを作成し、イベントで配付するなど、本に興味のない保護者にも幅広く周知していく。
- 本に関する情報を得やすいよう、紙媒体での図書館情報誌の配付に加え、インターネットを活用した情報提供を検討をしていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標①「身近な大人の読書冊数との関連性」の認知率が低下したのは残念な結果である。より効果的なPR方法を検討してほしい。

イ 指標①については、R8目標値との乖離が大きく、目標達成は現実的に厳しいと思われる。現状を分の上、R9からの新計画の策定作業の中で目標設定の見直しを図ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア アウトリーチ事業等におけるチラシ配付のほか、本に触れる機会の少ない保護者にも届くようなアプローチ方法の工夫に期待する。

イ 子どもへの本の紹介にあたっては、読みやすい本、年齢や発達段階に応じた本などを紹介し、本に親しむきっかけづくりの充実を図ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の方考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

--

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-4	本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

学校図書館は、読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動の支援や、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有する。

また、今後の学校図書館には、様々な場面での利活用を通じて、「主体的・対話的で、深い学びの実現」や「言語能力や情報活用能力、問題解決能力等の育成」を支える役割が期待される。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	小学生一人当たりの本の年間貸出数							
指標の定義	学校図書館での小学生一人当たりの本の年間貸出数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	30冊	実績値	30冊	41冊	45冊	47冊	48冊	36冊
目標値（R8）	36冊	達成率	83.3%	112.8%	125.6%	129.7%	132.5%	

指標名②	中学生の学校図書館の利用割合							
指標の定義	1か月の間に学校図書館を利用している生徒の割合 (重複あり 延べ利用者数÷生徒数)							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	141.0%	実績値	141.0%	85.7%	112.2%	131.1%	137.9%	170.0%
目標値（R8）	170.0%	達成率	82.9%	50.4%	66.0%	77.1%	81.1%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	1	0	0	0	0	9
%	89%	11%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

- 指標① 実績値はR5年度を上回り（47冊→48冊）、R8年度の目標値（36冊）も上回った。
指標② 実績値はR5年度を上回った（131.1%→137.9%）が、R8年度の目標値（170.0%）は下回った。

【要因分析】

- (1) 指標①に関しては学校図書館支援員の配置日数拡充（2/3の学校を週2日から4日に変更）により、児童の学校図書館の利用機会が増えたことが要因と推察される。
(2) 指標②に関しては、学校図書館スーパーバイザー等による巡回指導や学校司書への研修等の充実により、学校図書館の環境整備が進んだ効果が現れた結果と推察される。

【その他実績等】

- (1) 学校図書館スーパーバイザーの人員増により、校内研修や提案授業の実施回数を増やし、より具体的に学校図書館の活用策を学校教員に提示することができた。
(2) 学校巡回司書の新設により、学校司書への支援を充実したほか、学校司書の地区別連絡会を実施し、好事例の共有や課題を相談できる機会を設けることで、さらなる専門性の向上を図った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- (1) 学校図書館支援のアクションプランを策定し、学校図書館の「学習センター機能」への支援に重点をおくことを明確に示した。各校へ周知し、学校図書館の活用推進を図る。また、巡回訪問や研修会・地区別連絡会の内容を充実させることで、学校司書のさらなる専門性向上を図る。
(2) 小学校は図書館支援員は、令和7年度にはすべての小学校に週4日配置し、調べ学習等授業支援の機会増加による学習活動の充実や魅力ある図書資料の展示及び掲示、図書資料の整理に注力していく。
(3) 学校図書館活用推進校（令和6年度小9校、中2校から、小12校、中3校に拡充）を中心に、学校図書館スーパーバイザーによる助言・支援を通じて、学習における学校図書館の活用を進め、好事例を積み上げ他校への展開を図っていく。あわせて、学校図書館を学習活動で利用しやすくするため、レイアウト変更や備品の更新、蔵書の充実を進めていく。

【中長期の取り組み】

- (1) 読書が好きな子どもたちを増やしていくために、学校図書館のさらなる環境整備や蔵書の充実に向けた取り組みを進めていく。
(2) 児童・生徒が自ら学びを深め、言語能力や情報活用能力などの資質・能力の育成に繋げていくため、各小中学校において授業での積極的な学校図書館活用を促し、探究的な学習を推進していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	4	4	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 小学校については、貸出冊数を伸ばすことが出来ており、派遣事業の定着により支援員と教員が連携した学校図書館の活用が進んでいると評価できる。

イ 中学校については、コロナ禍以前の水準まで利用が回復しつつあり、学校司書や図書担当教員への支援の取組みの成果が見て取れる。令和8年度の目標とはまだ開きがあるので、さらなる利用促進に向けて、教員や学校司書への支援・啓発を一層充実させていくことを期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 多くの児童・生徒が本に親しみ、読書好きの子どもたちを増やしていくために、読書活動及び学習活動の場面で利用しやすい魅力的な学校図書館の整備を進めてほしい。

イ 学校図書館スーパーバイザーや学校巡回司書を効果的に活用し、学習の場面における学校図書館利活用を促進し、子どもたちの「調べて知る喜び」の体験から「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）				

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-1	区立図書館資料の充実と活用
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

区民の多様な関心に応え、幅広い知識や考え方等に触れられるよう、区立図書館の資料を充実させる。子どもに向けては児童資料や調べ学習のための資料などの充実を図っていく。時事に合わせたテーマや地域課題の特集などを積極的に行い、区民の関心を高める工夫を行う。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	区民一人当たりの図書資料貸出数							
指標の定義	(算出式) $A \div B$ A 図書資料貸出数 B 足立区の総人口							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	4.8冊	実績値	4.8冊	4.5冊	4.2冊	4.0冊	3.7冊	6.0冊
目標値 (R8)	6.0冊	達成率	80.0%	75.0%	70.0%	66.7%	61.7%	

指標名②	展示コーナー（特集棚）の本の貸出率							
指標の定義	時事に合わせた課題や地域課題を特集した、展示コーナーの本の貸出率							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	-	145.0%	125.5%	134.4%	146.0%	150.0%
目標値 (R8)	150.0%	達成率	-	96.7%	83.7%	89.6%	97.3%	

指標名③	電子書籍（「あだち電子図書館」）の貸出回数							
指標の定義	電子書籍の年間貸出回数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	-	実績値	-	13,680回	17,845回	28,390回	25,407回	45,000回
目標値 (R8)	45,000回	達成率	-	30.4%	39.7%	63.1%	56.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	0	0	0	0	4
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（4.0冊→3.7冊）は前年度を下回り、R8年度の目標値（6.0冊）も下回った。
指標②実績値（134.4%→146.0%）は前年度を上回ったが、R8年度の目標値（150.0%）を下回った。
指標③実績値（28,390回→25,407回）は前年度を下回り、R8年度の目標値（45,000回）も下回った。

【要因分析】

- 指標③については、主な図書貸出数減少の要因として、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及が影響していることが考えられる。
- 指標②については、庁内と連携した施策連携特集（年間20テーマ）を全館で実施し、関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などを実施した。利用者にPRが効果的に伝わり、展示コーナーの本の貸出率の上昇につながったと考えられる（展示冊数45,485冊、貸出冊数64,604冊）。
- 指標③の減については、R4から5年度にかけて実施した小中学生向けのあだち電子図書館体験キャンペーンの効果により令和5年度の利用回数が一時的に大幅増となったことの影響によるものである（同キャンペーン分を除いた貸出回数で比較すると、R6年度は約25%伸びている（20,204回→25,047回））。

【その他実績等】

- 「あだち電子図書館」については、引き続き蔵書の拡大に努め（6,534タイトル→7,198タイトル）、図書館に来館しなくても絵本に親しむことができるサービスを提供した（令和6年度貸出25,407回）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 電子書籍については引き続き蔵書の充実に努めるとともに、R7年6月から開始した学校授業における多人数視聴の利活用が進むよう、教員へのPRを図っていく。また、一時的なキャンペーンではなく、継続的に区立中学校全生徒および区立小学校5、6年生の全児童が電子図書館を利用できる仕組みを検討していく。
- 庁内関係所管との連携による「図書館×〇〇特集」について、あだち広報やホームページ、SNSの活用により積極的なPRを展開する。

【中長期の取り組み】

- 令和7年6月に策定した「図書館サービスデザインアクションプラン」に基づき、足立区に関連する資料の積極的な収集に加え、漫画や電子媒体など時代に合わせた資料の収集も意識して、図書館資料の収集方針や基準の見直しを進めていく。
- あだち電子図書館については、R8年度の目標所蔵数（8,000冊）を達成する見込みである。R9年度以降の収集方針について、メインターゲットの見直しも含めて検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 「区民一人当たりの図書資料貸出数」が3年連続で減少していることは残念な結果である。子ども・子育て世代の貸出が減となった背景について、分析を継続して改善を図ってほしい。
- イ 関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などを実施し、区民が本を手に取りやすくする方向性は評価できる。今後の継続的な取り組みを期待する。
- ウ 令和4年度と比較すると増加しており、一定の評価ができる。引き続き貸出しの増に努めてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 利用者目線に立った展示コーナーの名称変更により、読書に関心がない人が本を手取るきっかけとなることが期待できる。いかに関心を引けるかがポイントとなるため、引き続き、テーマ設定や展示の見せ方に工夫を図ってほしい。
- イ 電子書籍については、学校における利用が促進されるような取り組みは評価できる。引き続き学校との連携を図ってほしい。小中学生の継続的な利用については、タブレットを活用するなど、DXの視点も取り入れた検討に期待する。
- ウ 図書館資料の収集方針や基準を適切に見直しを行うことで、次世代の足立区民に残す蔵書の構築に努めてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-2	障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

障がいのある方や高齢の方などの読書に対するニーズに対応して、資料整備やサービスの充実を図る。
外国語の本や大活字本などの充実とともに、障がいや高齢などの理由で区立図書館に足を運べない方を対象に、図書資料の宅配サービスを拡充する。
さらに電子書籍の導入・活用も検討し、図書館にアクセスしにくい人々も本に親しめる環境を目指す。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	障がい者向け図書資料宅配サービスの貸出冊数							
指標の定義	図書資料宅配サービスによる、貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	76冊	実績値	76冊	367冊	418冊	979冊	789冊	500冊
目標値（R8）	500冊	達成率	15.2%	73.4%	83.6%	195.8%	157.8%	

指標名②	種別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数							
指標の定義	大活字本、外国語図書などの貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	22,443冊	実績値	22,443冊	22,241冊	22,685冊	21,597冊	21,058冊	29,000冊
目標値（R8）	29,000冊	達成率	77.4%	76.7%	78.2%	74.5%	72.6%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	6	1	1	0	1	0	9
%	67%	11%	11%	0%	11%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（979冊→789冊）はR5年度を下回ったものの、R8年度の目標値（500冊）は大きく上回った。

指標②実績値（21,597冊→21,058冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（29,000冊）を下回った。

【要因分析】

(1) 指標①については、貸出ルール変更により貸出冊数及び回数が増加したと思われる（311回・979冊→279回・789冊）。一方で利用者数についてはR5年度よりも伸びており（30人→33人）、高い水準を維持していることから、事業のPRの成果は一定程度表れている。

(2) 指標②については、種類ごとに新たな資料を購入しているが、出版数が限られている資料もあり、大幅な貸出増にはつながっていない。

【その他実績】

中央図書館で実施した小・中学生対象の職場体験で、障がい者サービスや「りんごの棚」の紹介を行った。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 「図書館サービスデザインアクションプラン」に基づき、障がいの種別に関わらず様々な場面で図書館を利用出来る環境を提供できるようサービスの見直しを図っていく。

(2) 関連部署と連携し、団体等が参加する審議会や催しで図書資料宅配サービスのPRを行うと共に、障がい者団体等サービスを利用する当事者の意見を聴取し、サービスの改善を図る。

【中長期の取り組み】

(1) 読書バリアフリー法を踏まえ、ICT活用による利用者のサービス向上を図るなど、障がい者サービスの充実を目指していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	—

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 障がい等を理由に図書館への来館が困難な方に対して読書を楽しめる機会を提供することは、だれもが身近に読書に親しむための効果的な手段として評価できる。利用回数の増に向けて、一度だけでなく続けて利用したくなるような環境づくりや資料の充実に期待する。

イ 種類別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数が減少しているため、障がい者サービスについてさらなるPRが必要ではないかと思われる。資料の充実に加え、機会を捉えて対象者へのPRを行ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 「サービスデザインアクションプラン」に掲げられた「足立での暮らしや学びが楽しくなる図書館」を実現するためには、障がいのある方へのサービスの充実を図る必要がある。利用者に寄り添ったサービスとなるよう、当事者の意見を聞き取りながら見直しを行い、各種サービスに反映してほしい。

イ ICT化を進めて利便性の向上を図ることは、現在の社会情勢を踏まえると不可欠である。多くの方が読書に触れ合える環境を提供し読書活動を推進していくためにも、ICT化や新たなサービスの導入を期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-3	区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

乳幼児コーナー、閲覧スペース、書架等の空間上の工夫や、レファレンスをはじめとするサービス、Wi-Fiや利用者向け電源の設置など情報環境の充実を図る。また、ICタグを活用し、複合施設の機能を活かして、図書館機能の拡大を図り、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組み、居場所としての図書館の役割を高めていく。

さらに、公共施設や区民・団体等との連携を図り、図書受渡窓口の整備など図書館外で区民が本を身近に手に取れる環境整備を目指すとともに、様々な媒体や関係する施設を活用し、本に関する情報発信を積極的に行う。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	読書に関心のある区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、読書に関心があると回答した区民に割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	55.2%	実績値	55.2%	53.2%	未実施	未実施	未実施	65.0%
目標値（R8）	65.0%	達成率	84.9%	81.8%	-	-	-	
指標名②	1か月に本を読んだ区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、本を読むと回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	54.3%	実績値	54.3%	52.9%	未実施	未実施	未実施	60.0%
目標値（R8）	60.0%	達成率	90.5%	88.2%	-	-	-	
指標名③	人口に占める登録者割合							
指標の定義	(算出式) $A \div B$ A 区立図書館登録者数計 B 足立区の総人口							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	26.1%	実績値	26.1%	23.9%	23.3%	22.9%	22.0%	35.0%
目標値（R8）	35.0%	達成率	74.6%	68.3%	66.5%	65.3%	62.7%	
指標名④	図書貸出冊数							
指標の定義	区立図書館における図書貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	3,146,503冊	実績値	3,146,503冊	2,940,503冊	2,745,072冊	2,593,084冊	2,422,669冊	3,232,000冊
目標値（R8）	3,232,000冊	達成率	97.4%	91.0%	84.9%	80.2%	75.0%	
指標名⑤	Webを活用した図書の予約貸出冊数							
指標の定義	パソコンやスマートフォン等インターネットを活用した、図書の予約貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	684,099冊	実績値	684,099冊	781,795冊	775,188冊	755,257冊	734,958冊	888,000冊
目標値（R8）	888,000冊	達成率	77.0%	88.0%	87.3%	85.1%	82.8%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	12	2	1	0	0	0	15
%	80%	13%	7%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①②は未実施。

指標③実績値（22.9%→22.0%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（35.0%）も下回った。

指標④実績値（2,593,084冊→2,422,669冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（3,232,000冊）も下回った。

指標⑤実績値（755,257冊→734,958冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（888,000冊）も下回った。

【要因分析】

(1) 指標③については、図書資料貸出数の減少（2,593,084冊→2,422,669冊）に伴い、Web予約の貸出冊数も減少したが、減少率（約2.7%）は図書資料全体の貸出冊数の減少率（約6.6%減）に比べて低い。貸出前にWeb予約を行う利用者の割合は増加しており、需要は引き続き高いと考えられる。

(2) 指標④については、近年、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及などが主な理由として考えられる。

【その他実績等】

(1) 「まず図書館に来てもらう」ことを目指し、子ども向けのイベントの充実や閲覧席の利用環境を整えた。図書館を居場所の一つとして利用する方が増え、入館者数は4年連続で増加（R5:2,393,443→R6:2,444,222人）した。

(2) 中央図書館のポスターやチラシの掲示場所を複合施設全体で整理するとともに、禁止事項の張り紙を集約・削減したことで利用者目線に立った分かりやすい掲示を実現した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 図書館でのイベントの充実や、魅力ある棚づくりを通して図書館に足を運ぶきっかけを増やしていく。

【中長期の取り組み】

(1) 「図書館サービスデザインアクションプラン」に掲げた目指すべき姿「本を読む人も読まない人も訪れ、区民でにぎわう図書館」を踏まえ、一人でもグループでも居心地の良い空間づくりや、より区民に寄り添った図書館サービスを実現するための区立図書館の見直しを行っていく。

(2) 区立図書館見直しの先駆けとして中央図書館のリニューアルを令和7年度から10年度にかけて実施する。誰もが居心地よく過ごすことができる居場所・閲覧空間や、特に用事がなくてもぶらりと立ち寄りたくなる明るく楽しい雰囲気づくりを目指していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 区立図書館の登録者割合は緩やかではあるが減少が続いている。新規登録者の獲得と共に、登録の継続を促すような、居心地の良い魅力ある図書館づくりを進めてほしい。
- イ インターネットを活用した予約貸出冊数は減少しているが、担当部の分析にもあるように需要は引き続き高いと考えられる。図書の予約だけでなく、インターネットを通じたサービスの充実に力を入れてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 図書館を取り巻く環境が大きく変化し、従来の枠から一歩踏み出したサービスを提供する図書館が目ざれている中、足立区もアクションプランを策定し、図書館を「単に本を借りる場」から「利用者の活動や交流を促進するような場」にしていこうとする姿勢は評価できる。
- イ 中央図書館のリニューアルはコンセプトやターゲットが明確となり、魅力ある図書館にむけて期待ができる。ワークショップ等を通して区民の意見やニーズをしっかりとすくい上げて進めてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-1	読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

読書活動推進の事業・サービスにかかわるボランティアを育成するとともに、様々な活躍の場を設けることで、読書活動を地域全体で活性化していくことを目指す。
また、読書活動に取り組む団体等を積極的に支援する。
区立図書館の職員、保育園や幼稚園の職員、学校図書館の運営・活用に関わる教諭などを対象とした研修を行い、読書活動スキルの向上を図る。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	読み語り講座等の参加者のうち読書推進活動を参加希望する方の割合								
指標の定義	読み語り講座等の参加者のうち、アンケートで「読書推進活動に携わりたい」と回答した方の割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	－	71.0%	83.5%	69.9%	71.1%		75.0%
目標値（R8）	75.0%	達成率	－	94.7%	111.3%	93.2%	94.8%		

指標名②	図書資料の団体貸出冊数								
指標の定義	図書資料の団体（ボランティア団体、区立小中学校等）への貸出冊数								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	120,840点	実績値	120,840点	227,201点	241,275点	231,049点	236,397点		230,000点
目標値（R8）	230,000点	達成率	52.5%	98.8%	104.9%	100.5%	102.8%		

指標名③									
指標の定義									
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値							
目標値（R8）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	9	0	0	0	0	0	9
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（69.9%→71.1%）はR5年度を上回り、R8年度目標値（75.0%）を下回った。
指標②実績値（231,049点→236,397点）はR5年度を上回り、R8年度目標値（230,000点）も上回った。

【要因分析】

- 指標①については、講座実施後のアンケートからは「絵本の魅力を子どもに教えたいと思った」「良い絵本や読み聞かせの工夫を知ることができた」などの反応があり、講座の実施が受講生の読書推進活動へのモチベーション向上につながったと考えられる。
- 指標②については、調べる学習コンクールの応募児童・生徒の増や小中学校における図書を使った調べ学習の機会が増加したことに合わせて図書配送サービスの利用も増加したと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 夏休み期間中、区立図書館全館で小・中学生を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」用図書の貸出を実施した（貸出冊数938冊）。また、校長会において調べ学習の図書貸出しについてのPRを行った。
- 区内児童館への図書配送について、児童館へのPRを行い、利用の増を図った（利用施設15館→16館・配送回数52回→84回・貸出冊数2,303冊→2,543冊）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- SNSやホームページ等を活用し、幅広く講座の参加者を募り、読み語りを行う人材のスキルアップとしての講座を引き続き行っていく。
- 調べ学習用図書配送サービス等の利用促進に向けて現場の教員や学校司書等へのPRを強化するとともに、利用促進に向けて学校現場の要望を聞き、サービス内容の充実を図る。

【中長期の取り組み】

- 読み語り講座の受講者に対して、読み語りボランティアグループの紹介や活動内容を紹介していくとともに個人でも活動できる場を紹介するなど、それぞれのニーズに合った活動機会の提供を検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 講座参加者が、読書活動推進活動に携わりたいという割合は増加し、その後の活動のモチベーションの向上につながっていることは、評価できる。

イ 区内小・中学校や児童館へのPRにより、団体貸出の増につながり、子どもたちが本に親しむ機会が増えたことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 読書の楽しさや大切さを伝えていけるように、読書活動に関わる人材の育成や活動の場を提供し、さらに読書活動が広がっていくことを期待する。

イ 児童・生徒の調べ学習の充実に繋げるため、公共図書館からの図書配送について、学校現場の意見を聞きながら内容の充実と学校の利便性の向上を図って欲しい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

【様式】読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-2	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指す。
そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていく。また、読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組む。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	3分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合								
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしている。」以上を選んだ区民の割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	75.7%	71.0%	72.4%	72.3%		83.0%
目標値（R8）	83.0%	達成率	-	91.2%	85.5%	87.2%	87.1%		

指標名②								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	実績値							
目標値（R8）	達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値							
目標値（R8）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0		0	0	0	2
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（72.4%→72.3%）はほぼ横ばいであるが、R8年度の目標値（83.0%）は下回った。

【要因分析】

指標①について、引き続き区内15か所の拠点で文化芸術またはスポーツをきっかけに読書につなげるプログラムを実施したことにより、読書をしていない区民への働きかけができ、前年度と同等の実績を上げることができた。

【その他実績等】

- A-Festaに出展し、紙芝居の実演や工作会、本のとらば一ゆを実施し、多くの人へ絵本の楽しさを伝えることができた（延べ563人参加、とらば一ゆ406冊）。
- 学びピア21で「図書館にはたらく犬がやってくる」を開催し、障害のある方の理解を深めるため、日本補助犬協会による講演と補助犬のデモンストレーションユニバーサルデザイン製品の展示や関連本の貸出、調べ学習のPR等を行った（77人参加、6人14冊貸出）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 普段本を読まない人でも気軽に本に触れられるよう、多くの人が集まる大型イベントに図書館ブースを出展するなど、アウトリーチ事業を中心に本の楽しさを伝えるイベントを積極的に実施し、本に触れる機会を増やすことで、読書習慣の定着を図っていく。
- またなかで本と触れ合える仕組みを検討していく。先進事例を視察の上、R7年度中に事業の目的や位置付け、運営スタッフの配置、イベントや企画を区民が自発的に行うような体制について検討していく。

【中長期の取り組み】

- 「図書館サービスデザインアクションプラン」を踏まえて、乳幼児に向けた事業から地域の歴史や文化などをテーマにした大人向け事業の実施など、多様な人々が本や情報を仲立ちとして楽しくつながり、交流が生まれるような仕掛けや場所を創出し、利用者層の拡大を図っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標①については、近年実績値がほぼ横ばいであり、R8目標値には取り組みの強化が必要と思われる。新たな場所や切り口を検討するなど、工夫を図ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア アウトリーチ事業として身近な場所で本に親しむことができることは、普段あまり図書館を利用しない親子にとっても本を楽しむきっかけづくりにつながる。関係機関との連携を強化し、より効果的な場所での開催を検討することで、読書に親しめる内容のイベントを数多く実施してほしい。

イ 子どもから高齢者まであらゆる世代が図書館サービスを利用でき、図書館を通じて楽しくつながる仕掛けや場所の創出方法の検討をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

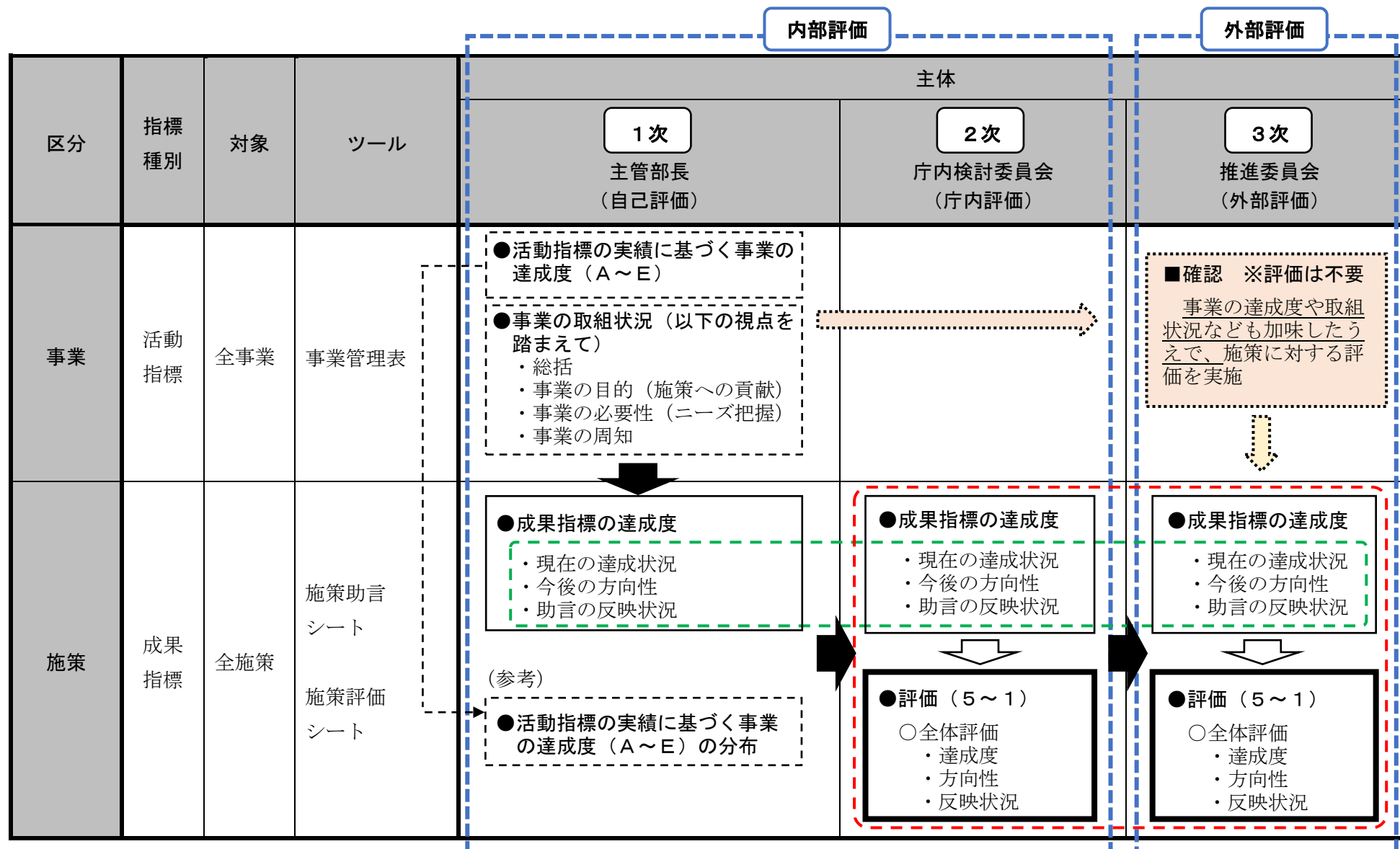
(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

--

足立区文化・読書・スポーツ分野計画 評価体系



足立区文化・読書・スポーツ分野計画（２次・３次評価） 評価基準

資料５－２

視点別 評価	①現在の達成状況	②今後の方向性	③反映結果※
	目標に対して成果が十分に出ているか	各取組みが施策の方向性に沿ったものか 施策の実現に向けた手法は適切か	前年度の推進委員会の評価（助言）が 反映されているか
５	優れた取組みが多く、施策の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も適切で積極的に推進すべきである。	評価（助言）以上に反映した。 （反映率：100%以上）
４	優れた取組みがいくつかあり、施策の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	評価（助言）を積極的に反映した。 （反映率：70%程度）
３	いくつかの取組みに成果は出ているものの、施策の目標達成に向けさらなる工夫が必要である。	各取組みが施策の方向性に概ね合致しており、手法も概ね妥当である。	評価（助言）をある程度反映した。 （反映率：50%程度）
２	いくつかの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果があまり出ていない。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法にやや課題がある。	評価（助言）の反映が消極的である。 （反映率：20%程度）
１	多くの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果が出ていない。改善が必要である。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法を抜本的に見直す必要がある。	評価（提言）が全く反映されていない。 （反映率：0%程度）

【全体評価：視点別評価点の合計】

重点項目施策※	15～13	12～10	9～7	6～5	4～3
	5	4	3	2	1
その他の施策	10～9	8～7	6～5	4～3	2
	5	4	3	2	1

※ 令和６年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、全ての施策で、③前年度の助言（評価）反映結果がありません。
このため、令和７年度の全体評価については、全ての施策で、①②の視点の合計点（10点満点）に基づき、5段階で評価します。

読書活動推進計画 評価実施状況（令和３年度）

令和３年度の助言（令和３年度報告書から）	令和３年度の助言の反映結果（令和４年度評価シートから）
１ 新しい生活様式に対応した読書 （１）子どもたちへの多様な働きかけの模索 各種の読書世論調査などでも示されるように、全国的に子どもたちの読書離れを指摘されることが多くなってきている。読書の喚起については、単に図書館に本を用意して利用を待つといった環境の整備だけではなく、読書の楽しさを伝えることや読書と関連した事業の展開など子どもたちに対する積極的な働きかけが必要である。 従来、このような活動は人を集めたイベントを中心として行われてきたが、コロナ禍で多くの人々を集めて直接的に働きかける活動は難しくなっている。短期的にはこのような状況がスタンダードとなる可能性があり、また子どもたち自身のライフスタイルも少しずつ変化してきている状況も相まって、従来のイベント中心の取り組みに加えて多様な形での働きかけの模索が必要であろう。昨今の状況の中で、区でも直接的なイベントに代わるものとしてオンラインイベントの開催や、「あだち絵本シアター」の動画の制作・配信といった取り組みがなされており一定の効果をあげている。今後も、社会状況や利用者の変化に対応した多様な活動が望まれる。 （２）ＰＤＣＡサイクルに基づく事業展開 このような活動を行う場合には継続的な評価や改善も重要である。たとえば、動画配信活動は長期間にわたって視聴することができるという利点がある反面、短期間に与えるインパクトはイベントなどに比較して小さい。また、関連するコンテンツを連続的に視聴することが容易であるなど、他のコンテンツとの相互効果が重要であるといった特徴も指摘される。単に動画コンテンツを一度作成して終わりではなく、動画配信の第２弾・第３弾や、他の施策の試行など多様かつ継続的な活動が必要であろう。 また、そのために何が読書の楽しさであり大切さであるのかを明確にするなどの調査と分析も望まれる。本が好きな人だけではなく、様々な方向に幅広く情報発信する工夫も求められる。最初の活動としては小規模でも良いので新しい事業をたくさん企画して実施してみること、その上で評価を行って良かった事業をさらに広めることが重要であろう。	施策１－１ （１）「デジタル時代に対応した読書支援活動」に関する助言に対しては、「あだち電子図書館」にて、子育て世代をターゲットに、子どもとその周囲の大人が楽しめるよう、電子書籍の充実を図っている。 （２）「保護者への働きかけ」「大人に対する読書支援」に関する助言に対して、「あだちはじめてえほん」事業の中で、新たに仮登録した貸出カードの配付や「あだち電子図書館」のＰＲを開始した。 施策１－４ （１）「保護者への働きかけや大人に対する読書支援を」との助言について、３分野連携事業の継続実施や複合施設内の図書館以外の場所での図書展示など、他分野との多様な連携により読書のきっかけづくりを行った。 施策３－２ （１）「幅広い観点からの協創活動の検討が望まれる」との助言に対して、出版社及びジェイヴェルデ大谷田と連携したイベントを企画したが、コロナ禍の影響により中止となった。
２ デジタル時代に対応した読書支援活動 （１）デジタル化により目指すもの 現在でもＷｅｂ上での動画配信など、デジタル環境を用いた読書支援活動は少しずつ始められているが、現今のコロナ禍という状況だけではなくデジタルネイティブ世代に対する読書支援活動においては、デジタル環境をどのように利用していくかは特に重要であろう。 近年、情報を受け取る経路が多様化してきた。多くの刺激を多方面から受ける子ども	

令和３年度の助言（令和３年度報告書から）	令和３年度の助言の反映結果（令和４年度評価シートから）
たちに対する読書支援では、図書との出会いの創出だけではなく、その先にある読書習慣につながる施策が重要である。電子書籍や動画配信などといった紙媒体以外を用いた読書や、読書という枠組みそのものの再構築も含め、子ども達に必要なものは何かという検討を深めること、また長期的な活動指針を策定していくことが望まれる。 （２）より効果を高めるために デジタル時代においては、提供したコンテンツの利用の広がり大きいことにも注目すべきである。発信したコンテンツの二次利用への壁を下げることであれば、発信の効果が大幅に高まることが期待できる。少なくともコンテンツに対するライセンスの付与が望まれよう。 ３ 保護者への働きかけ、大人に対する読書支援 （１）乳幼児期から成長後までの幅広い働きかけ 子どもの知的好奇心を刺激し読書への興味を喚起する上でも、また読書の楽しさを啓発する上でも、子どもたちが本に親しむためには保護者の役割が非常に大きい。コロナ禍で十分な活動が行えない中でも、乳幼児の保護者を対象とした「あだちはじめてえほん」事業は、幼児期の子どもと保護者に本とのタッチポイントを創出する事業として評価できる。また、このような保護者の役割は乳幼児段階だけではなく、子どもたちが成長した時期においても大きな影響があると考えられる。 （２）保護者へのノウハウの提供 子どもたちに対する読書指導に保護者への関与を促す施策は非常に重要であるといえよう。その際、子どもの本についての情報を適切に届けるだけでなく、どのように子どもに本を与えるかというノウハウの提供なども保護者が期待するところであろう。 （３）大人自身の読書の重要性 上記のような保護者に対する働きかけは、子どもに対する働きかけという観点での活動だけではなく、広く捉えることも必要であろう。大人が読書する姿そのものが子どもに読書への興味を与えることも多い。その意味で大人の読書活動自体を活性化する施策を検討するなど、保護者という枠組みだけにとどまらない視点も重要である。たとえば、大人向けの本の紹介イベントや保護者への読み聞かせなど、大人と本との距離を縮めるための活動、大人を対象とした読書支援活動の充実を、多様なアプローチ法を用いて行うことも検討する価値がある。 ４ 学校教育等との連携 （１）学校教育との連携 読書は学習のための有効な活動であると同時に、社会で生きていくための大きな情報源でもある。家庭内での読書、学校図書館などでの読書、公共図書館の利用など、さまざまな場面が独立するのではなく、社会教育と学校教育、さらに家庭との連携が重要で	

令和３年度の助言（令和３年度報告書から）	令和３年度の助言の反映結果（令和４年度評価シートから）
ある。特に、近年の学校教育のデジタル化や情報へのアクセス環境の整備などを受けて、子どもたちの読書環境は大きく変化してきている。教育委員会とも連携し、新しい読書環境、整備された情報へのアクセス環境を効果的に利用する手法の検討を行うことは、喫緊の課題であろう。 その際、デジタル化の発展は重要な要素であるが、デジタル化ばかりに焦点を当てるのではなく、対面での活動など従来の手法についても再検討することが不可欠である。コロナ禍においての人数制限や感染対策など、どのような準備をすれば活動を再開できるかについての情報提供は極めて重要と考えられる。 （２）その他の主体との多様な連携 各種活動との連携・協創は、学校教育以外についても検討することができる。たとえば、運動・スポーツや文化芸術活動などに関わる図書館以外の区の施設（都市農業公園やギャラクシティ等）との共同企画などは、その一例であり、このようなコラボレーション相手の多様化は極めて有効であろう。他にも、本の中に見られる情報と現実の料理やスポーツとの関わりなど、幅広い観点からの協創活動の検討が望まれる。	

読書活動推進計画 評価実施状況（令和4年度）

令和4年度の助言（令和4年度報告書から）	令和4年度の助言の反映結果（令和5年度評価シートから）
1 新しい生活様式やデジタル化の進展などの変化に対応した読書支援活動 近年のデジタル化の進展は、コロナ禍ともあいまって人々の行動様式・生活様式を大きく変えてきた。読書活動についても、単に媒体がデジタルに変わってきたというだけではなく、電子書籍を含む種々の情報媒体の出現、読み方の変化、読書環境・読書を行う場所の多様化など広い範囲に影響を与えてきている。情操教育、情報収集など、読書活動自体についても図書や雑誌が中心であった状況はウェブ環境、検索エンジン、動画配信サイトなども含めた幅広い検討が必要となってきた。読書活動の拠点となる学校および公共図書館についても、多様な変化を見据えた幅広い活動が重要となっており、これらへの対応が求められる。既に今までの活動の中で、電子書籍の導入などデジタル化等に対する対応が進められてきていることは評価できるが、今後、より速度をあげる形で対応を進めてほしい。 （1）紙資料だけにとどまらないデジタル資料の導入を進めてほしい。ただし、紙資料の重要性にも留意し、紙資料とデジタル資料のバランスに配慮することも求められる。 （2）デジタル資料を中心とした電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する。電子図書館の運営に際しては、従来の図書館の単なる拡張にとらず、ターゲットを設定したサービス展開も求められる。 （3）デジタル資料は障がい者に対する高度なサービス展開にも応用することが期待できる。情報技術の発展に常に目配りした情報提供体制の構築を急いでほしい。 2 図書館を利用しない人、読書に関心がない人への効果的なアプローチ 近年の読書世論調査でも読書をしない人の割合が増加しており、また子どもたちについても中学生以上の読書率は急激に低下することが知られている。この背景には動画配信サイトやソーシャルネットワークなど多様化する情報源の存在もあげることができよう。その一方で、多くの人々が読書の重要性を認識していることも確かである。図書（電子書籍も含む）などを単に陳列するだけではなく、より積極的な読書の面白さ、有効性に関する周知・広報が求められる。 （1）図書館において、読書や図書資料への関心を高めるための選書や展示方法の工夫が望まれる。 （2）デジタル化をはじめとした新しい技術の利用も積極的に進めることが望ましい。図書館内などでの検討だけではなく、アイディアソン・ハッカソンなども活用して外部のアイディアを取り込むことも有効であろう。 3 図書館と他の組織との連携の充実 ここ数年の図書館活動においても他の施設との連携など多様な方法がとられてきたことは高く評価できる。今後より積極的な活動の展開を期待する。 （1）図書館と他の施設との多様な形での連携を期待する。場合によっては、図書館や図書	施策 1－1 （1）「電子図書館のターゲットを設定したサービス展開が求められる」との評価を踏まえて、「あだち電子図書館」では引き続き「子ども」「子育て世代」と中心とした資料収集に努めた。令和5年度もこの方針を継続し、子どもとその周囲の大人が楽しめるよう、電子書籍の充実を図っていく。 施策 1－2 （1）「電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する」との評価を受け、区立中学校全生徒を対象「電子図書館体験キャンペーン」を実施した。なお、令和5年4月から、小学校5・6年生に対象を拡大して実施している。 施策 1－3 （1）「学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる」との評価を踏まえ、学校図書館の利活用促進や学校間格差解消のため、令和5年度から学校図書館の活用方法や環境整備に関するアドバイス・提案を行うなどして学校へのサポートを行う「学校図書館スーパーバイザー」を教育委員会に1名配置した。また、図書担当教員向け研修で、司書教諭の役割や学校図書館の授業での具体的な活用方法について取り扱っていく。 （2）「効果的な活動の事例を区内全域に広げる工夫が求められる」との評価を踏まえ、各校1名の配置である学校司書の横のつながりを強化し、好事例の共有などを図るため、情報共有ツールの導入に加え、令和5年度からは地区別連絡会を開催する。 施策 1－4 （1）「子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供を」との評価を踏まえ、子育て世代を主な対象とした「ちょい読み」を継続して実施するほか、絵本の読み語りと大人に向けた絵本講座を実施する「あだち絵本シアター」などを通じて、読書のきっかけづくりを行った。 施策 2－1 （1）「読書や図書資料への関心を高めるための選書や展示方法の工夫が望まれる」との評価を踏まえ、時事テーマや各種特集展示などを展開した。

令和４年度の助言（令和４年度報告書から）	令和４年度の助言の反映結果（令和５年度評価シートから）
館サービス、図書資料自体を切り口としないアプローチ、対面とオンラインのハイブリッドなど多様な展開を期待する。 （２）ただし、長期間にわたる継続的な活動を持続することが重要であることを意識し、省力化などに配慮することも意識する必要がある。 ４ 子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供 子どもたちの読書活動には、保護者を含めた子どもをとりまく周囲の人々の読書活動が大きく影響しており、単に子どもたちだけではなく大人に対しても働きかけることが重要であると考えられる。また、子どもたちの生活時間の大きな割合を占める学校での活動も大きな影響があることは当然であろう。子どもたちの読書に関する検討の中で、「学校での活動」と「周囲の大人も巻き込んだ活動」が特に重要と考えられる。 （１）学校での読書活動の中核を担う学校図書館の活動は非常に重要であり、学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる。足立区内の現在の活動においても、学校図書館支援員を中心とした活発な活動の事例などは見られるが、現状では地域による偏りなども見られる。効果的な活動が行えている学校図書館の事例を積極的に公開するなど、区内全域に広げていく工夫がより求められる。 （２）学校図書館の利用促進、読書活動の活性化には、教員の熱意や経験が大きな影響を与えることは言うまでもない。多忙な教員をサポートする体制を充実させ、教員が読書活動に対しても目配りできる環境を整備することが必要である。 （３）学校図書館の活動に対して子どもたちが、より興味を持つ工夫が求められる。電子資料の導入、電子図書館の普及、多様な連携サービスの検討など、従来は行われていなかった活動も含めた多様な方策の検討が望まれる。 （４）学校図書館だけではなく、保育施設との連携も重要である。保育施設の職員に対しての図書館の多様な活動の紹介などにも注力すべきと考える。 ５ 指標に関すること 読書と関わる活動として、他の施設との連携など対面のイベントを中心とした活動が計画されていたことがあり、参加者数などをもとにした指標はコロナ禍での新しい行動様式の変化には十分に対応できていない側面もある。デジタル化の進展とウイズコロナの状況を迎えて指標の再検討も求められる。 また、読書活動の指標は図書館に来館した人を中心とした指標ではなく、図書館を利用しない人に対する働きかけが重要な意味を持つことがある。このような非来館者に対する活動も評価する指標も改めて検討を深める必要がある。さらに、ある程度読書支援活動が進んできた段階では、読書をしたかどうかという量的な側面だけではなく、読書によって人々にどのような影響がもたらされたのかというインパクトやアウトカム（短期的・長期的成果）を把握することも必要となろう。	施策２―２ （１）「デジタル資料は障がい者に対する高度なサービス展開への応用ができる」との評価を踏まえて、「足立区地域自立支援協議会権利擁護部会」において、「あだち電子図書館」や図書館の障がい者サービスについてＰＲを行った。 施策２―３ （１）「図書館と他の組織との連携の充実」との評価を踏まえて、地域開放型図書室「わくわく にこにこ 図書の森」の開設をしたほか、シアター１０１０で「あだち絵本シアター」を開催するなど、図書館外で本に身近に触れる機会を提供した。 （２）「より速度をあげる形でデジタル化等への対応を進めてほしい」との評価を踏まえて、図書貸出カードの電子化と、「あだち電子図書館」と図書館システムの連携に向けた検討を開始した（令和５年度実現予定）。 施策３―１ （１）「図書館と他の組織との連携の充実を期待する」との評価を踏まえ、綾瀬小学校地域開放型図書室「わくわく にこにこ 図書の森」にて地域のボランティア団体によるおはなし会を開始した。 施策３―２ （１）「図書館や図書館サービス、図書資料自体を切り口としないアプローチを期待する」との評価を踏まえ、東京藝術大学や郷土博物館など今まで連携していなかった組織と連携したイベントや展示を実施した。令和５年度も意外性やインパクトを意識した企画を検討していく。

読書活動推進計画 評価実施状況（令和5年度）

令和5年度の助言（令和4年度報告書から）	令和5年度の助言の反映結果（令和6年度評価シートから）
助言総括1 子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供 子どもたちの読書活動には、保護者を含めた子どもを取り巻く周囲の人々の読書活動が大きく影響しており、単に子どもたちだけではなく、大人に対しても働きかけることが重要であると考えられる。また、子どもたちの興味関心を喚起するためには、大人目線での活動だけではなく、子どもの視点に立った活動も求められる。 （1）乳幼児を対象とした絵本配付手法の再検討 読書への興味は、乳幼児の段階での環境が生涯にわたって大きな影響を与えるとされる。子どもに最初のきっかけを与える施策として、また保護者に対しても興味を喚起するという意味でも、「あだちはじめてえほん」は効果的であり、特に3・4か月検診時の配付が順調であることは高く評価できる。 ただし、1歳6か月児を対象とした活動での引換率が低いのは残念である。このような事業では多忙な保護者の負担をどのように軽減するかが重要であり、引換券を介して配付する現在の方式を再検討することも望まれる。 （2）学校図書館活動の充実と学校図書館・公共図書館の積極的な連携 学校での読書活動の中核を担うという観点から、また調べ学習など考える力を涵養するという点からも、学校図書館の活動は非常に重要であり、学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる。 また、学校図書館の活性化には、資料や情報提供システムが充実した公共図書館との連携も必然であろう。 さらに、公共図書館を通じて各種外部機関まで広がる連携など、幅広い活動を行う環境づくりも求められる。資料の提供に際して、「あだち電子図書館」では児童書も数多く含まれており、これらを学校教育に効果的に取り込むなどの工夫も期待される。 （3）読書に関する情報提供方法の多様化 読書活動においては、読書の楽しさ、読書の効果などをできるだけ多様な手段で子どもたちに伝えることが望まれる。さらに子どもたちだけにとどまらず、保護者にも積極的な情報提供を行うことが重要である。その意味で同世代の子どもたちからの推薦を掲載した広報誌や、読書の有効性を掲載したちらしの作成などの工夫は高く評価できる。 助言総括2 多様な連携による読書活動の推進（図書館を利用しない人、読書に関心がない人にも届く効果的なアプローチ） 読書活動の推進をはかるには、図書館を利用しない人や読書に関心がない人に対していかに効果的なアプローチをとることができるかが重要である。そのためには図書（電子図書も含む）などを単に陳列するだけではなく、人々の興味を刺激するきっかけとなる活動を展開し、読書の面白さや有効性を積極的に周知・広報していくことが求められる。	令和6年2月に計画を改定した直後であったことから、令和6年度評価（令和5年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和5年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和４年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
（１）イベントなどの読書推進活動における多様なテーマ展開 人々に興味を持ってもらう行動としては、選書の充実や展示のような図書館が従来から行ってきた活動も重要であるが、イベントの開催などの積極的な活動も期待される。人々の興味が多様であることを考えれば、多様なテーマ展開がなされることが望ましい。また、長期間にわたって継続的な活動を持続することも重要である。 （２）多様な外部機関との積極的な連携 継続的に多様なテーマのイベントなどを開催することは図書館単独で行うことは不可能である。民間施設や出版社、書店など外部の機関と連携した活動が企画できるかが重要であろう。最近の図書館活動において外部機関との連携した活動が積極的に行われていることは高く評価できる。今後とも積極的な活動展開を期待する。 （３）継続的な実施が可能な連携計画の工夫 限られた予算や人員の中で効果的な事業を行うためには、各種省力化の工夫も重要である。デジタル化をはじめとした新しい技術の利用も積極的に進めることも望ましい。図書館内などでの検討だけではなく、アイディアソン・ハッカソンなども活用して外部のアイディアも取り込むことなども考えられよう。 （４）図書に興味を持つ人々に対する多様なイベント展開 読書に興味がない人々に対してだけではなく、図書に興味を持った人に継続してもらうための活動も検討することが望ましい。場合によっては同様のテーマで内容を変えるなども考えられよう。 助言総括３ アフターコロナやデジタル化の進展などの変化に対応した読書支援活動 近年のデジタル化の進展は、コロナ禍ともあいまって人々の行動様式・生活様式を大きく変えてきた。学校教育にタブレット端末を用いた学びが導入されてきており、読書活動についても電子書籍を利用する人が若年層を中心に少しずつ増加してきた。これにより読書環境・読書を行う場所の多様化や読み方の変化など広い範囲の影響が想定される。また、情報源としての図書の役割もウェブ環境、検索エンジン、動画配信サイトなども含めて使い分けが必要な時代となっている。さらに生成系ＡＩの出現などもあり、読書支援に関してもより多様な変化を見据えた幅広い活動が重要となっている。 既に今までの活動の中で、電子書籍の導入などデジタル化に対する対応が進められてきていることは評価できるが、今後、より速度をあげる形で対応が望まれる。 （１）デジタル資料提供のさらなる充実 紙資料だけにとどまらないデジタル資料の導入を進めてほしい。「あだち電子図書館」の充実は急務である。ただし、紙資料の重要性にも留意し、紙資料とデジタル資料のバランスに配慮することも求められる。 （２）利用統計に基づく紙資料・デジタル資料の選定 限られた予算の中で紙資料とデジタル資料の両方を充実させることを考えれば、館内	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和４年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
閲覧と館外貸出の状況を詳細に分析して両者の利用予測を行うことが望まれる。ただし、全ての人に多様な情報を提供する公共図書館の役割を考え、単に利用の多寡だけを指標としないことに留意する必要がある。 （３）「あだち電子図書館」への簡便な登録の仕組みづくり 「あだち電子図書館」のような新しい仕組みについては、実際の利用回数を増やす工夫も必要であるが、それ以前に登録者を増やすための仕組みづくりが重要である。工夫をこらした広報や、簡便に利用登録ができる手段など多様な方策の検討が望まれる。 （４）障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩなどの新技術への対応 デジタル資料を中心とした電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する。障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩをはじめとした新技術に足立区内の子どもたちが乗り遅れない情報提供体制の構築も急務であろう。 助言総括４ 読書支援活動の指標 読書支援の中心となる図書館に関わる指標としては、図書館の来館者と貸出冊数だけに注目されるのが現状である。しかし、図書館を実際に利用する人が必ずしも区民の多くを占めるわけではないという現状を考えた場合、図書館に来館した人を中心とした指標だけではなく、図書館を利用しない人に対する働きかけも重要な意味を持つと考えられる。また、図書館の役割は単に所蔵する図書を貸し出すというだけではなく、情報提供や場の提供など多様である。 したがって、図書館を評価する際には貸出冊数の多寡ではなく、来館者にどのような多様なサービスが提供されているのか、また非来館者に対してどのような活動ができているのかも評価する指標を検討する必要がある。さらに、ある程度読書支援活動が進んできた段階では、読書をしたかどうかという量的な側面だけではなく、読書によって人々にどのような影響がもたらされたのかというインパクトやアウトカムを把握することも必要となろう。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和7年度 アンケート調査項目一覧(16 歳以上用)(案)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 ターゲットに応じた施策を検討する
- 4 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 5 コロナ禍の影響を把握する
- 6 その他

(1)一般区民向け調査

	設問 性・年代等の基本属性について	分析の視点						ねらい	所管課検討案				
		1	2	3	4	5	6		新規	継続	削除	変更	→ (変更の場合) 変更理由・変更内容
1	性別		○	○	○			分析軸として活用します。(例:年代、年代-性別 等)		○			
2	年代(5歳年齢階級)		○	○	○			分析軸として活用します。(例:未成年、若年層、高齢者 等)		○			
3	居住地区		○	○	○			分析軸として活用します。(例:地域学習センターの設置地区 等)		○			
4	職業		○	○	○			分析軸として活用します。(例:職業の有無別)		○			
5	子どもの有無		○	○	○			分析軸として活用します。(例:子どもの有無別)		○			
6	18 歳未満の子どもの人数		○	○	○			分析軸として活用します。		○			
	文化・読書・スポーツに対する関心について	1	2	3	4	5	6	ねらい					
7	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○	○		○	各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					

8	(文化に関心ある人のみ) 文化に関心を持つようになったきっかけ			○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
9	(読書に関心ある人のみ) 読書に関心を持つようになったきっかけ			○	○			読書における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。			○	選択肢8の次に追加 「9. インターネットや SNS で紹介動画をみて」
10	(スポーツに関心ある人のみ) スポーツに関心を持つようになったきっかけ			○	○			運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
文化芸術について		1	2	3	4	5	6	ねらい				
11	関心のあるジャンル			○				関心のあるジャンルを把握します。				
12	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
13	(鑑賞したことがある人のみ)鑑賞の仕方(区内・区外)	○			○			「受動的に」「一人で」「主体的に」の視点で鑑賞の仕方を把握します。主体的に鑑賞する人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
14	(鑑賞したことがない人のみ)鑑賞しなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
15	文化芸術に関わるイベント・講座の参加の有無	○			○			参加・活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
16	(参加した人のみ)参加後の文化芸術に関わる行動	○			○			参加後の文化芸術に関わる行動の実態を把握します。				

17	文化芸術に関わる活動の参加の有無	○			○			文化芸術に関わる活動への参加の実態について把握します。					
18	(活動している人のみ)活動の仕方	○			○			活動への関わり方について把握します。					
19	区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の有無	○			○			区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の実態について把握します。					
20	文化芸術を楽しむ人が増えるために必要な施策			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
読書について		1	2	3	4	5	6	ねらい					
21	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。			○	選択肢7を変更 「本などの紹介動画や通販サイトをみた」	
22	(本を読んだ人のみ)読書の仕方	○			○			読書の仕方について把握します。		○			
23	(本を読まなかった人のみ)本を読まなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。			○	①回答の対象者を変更 問21で「8」・「9」を選んだ人 ②質問を変更 「あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか」 ③選択肢を変更 「1. 本を読むことよりも時間をかけたいことや趣味があるから」 「2. 仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」	

													「3. 本を読むことが嫌いだから」 「4. 年をとって本を読むことが難しくなったから」 「5. どんな本を読めばいいかわからないから」 「6. その他」
24	電子書籍を活用した頻度	○	○		○		○	電子書籍を活用した頻度について把握します。		○			
25	過去1年間でおこなった読書活動	○			○			活動している人ほど、人生 100 年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				○	①選択肢4、5、6を削除 ②選択肢8を変更 「好きな著者の講演会や本をテーマとしたイベントに参加」 ③選択肢の追加 「インターネットや SNS で本や漫画、雑誌の紹介動画を見る」 「インターネットや SNS で本や漫画、雑誌の感想などを紹介する」
.26	図書館を利用する目的			○	○			図書館のサービスニーズを把握し、施策を検討するために活用します。		○			
	利用する図書館			○				よく利用する図書館について把握します。	○				問、一番利用する区立図書館はどこですか。 「1.中央図書館」～「15.やよい図書館」「16.利用したことがない」
	図書館の居心地の良さ	○		○	○			中央図書館における居心地の良い空間づくりの達成度を把握します。	○				問、区立図書館は居心地がよいと感じますか。 「1. はい」 「2. いいえ」

														「3. 行かないので分からない」
	図書館職員の相談のしやすさ	○		○	○				中央図書館の調べもののサポートや情報拠点としての役割の達成度を把握します。	○				問、区立図書館では気軽に相談ができますか 「1. はい」 「2. いいえ」 「3. 行かないので分からない」
	区立図書館の満足度	○		○	○				区立図書館サービスの満足度を把握します。	○				問、区立図書館があつて良かったと思いますか 「1. はい」 「2. いいえ」
	運動・スポーツについて	1	2	3	4	5	6	ねらい						
27	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。						
28	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度	○	○		○		○	運動・スポーツの実施頻度について把握します。						
29	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施場所			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。						
30	(実施しなかった人のみ)運動・スポーツをしなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。						
31	過去1年間における運動・スポーツの観戦の有無 (トップスポーツ・地域の運動会)	○			○			観戦している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。						
32	(観戦したひとのみ)観戦の仕方(区外・区内)	○			○			観戦の仕方について把握します。						
33	(観戦しなかった人のみ)観戦しなかった理由			○	○			観戦しなかった理由について把握します。						

34	過去1年間における運動・スポーツの支える活動の有無	○			○			活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。					
35	(活動しなかった人のみ)活動しなかった理由			○	○			活動しなかった理由について把握します。					
	文化・読書・スポーツに関わる活動について	1	2	3	4	5	6	ねらい					
36	文化・読書・スポーツを楽しむ人が増えることによるまちへの効果	○			○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、まちへの効果に対して肯定的な回答が多いと考えています。					
37	「ちよいスポ」・「ちよいカル」・「ちよい読み」キャンペーンの認知度		○	○	○			取組の認知度(参加状況)を把握します。					
38	「ちよいスポ」・「ちよいカル」・「ちよい読み」キャンペーンへの参加希望		○	○	○			取組への参加希望の実態を把握します。					
39	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について			○		○		(行動)3分野の活動の実態を把握します。					
40	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について			○		○		(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。					
41	コロナ禍を経て3分野の活動の仕方の変化について			○		○		3分野の活動の仕方の変化を把握します。					
42	コロナ禍を経て3分野の活動の仕方における対面での実施の重要性に関する意識変化			○		○		3分野の活動の仕方における対面での実施の重要性に関する意識変化を把握します。					
	あなたの日常生活について	1	2	3	4	5	6	ねらい					

て													
43	人生100年時代を心豊かに生きるための要素(意欲)に関するあてはまり	○			○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。					
44	人生100年時代を心豊かに生きるための要素(実践)に関するあてはまり	○			○			意欲から実践へのつながりの度合いについて把握します。					
45	ご近所づきあいや地域活動の有無	○			○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、社会関係資本を持つ回答者が多いと考えています。					
46	(ご近所づきあいや地域活動をしていない人のみ)ご近所づきあいや地域活動をしていない理由		○					ご近所づきあいや地域活動をしていない理由について把握します。					
47	区内の人とのつながりの有無	○			○			区内の人とのつながりの実態について把握します。					
48	足立区に対する愛着・誇り・推奨、可処分時間・所得の程度	○	○	○	○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、シビックプライド(愛着・誇り・推奨)が肯定的な結果を示すと考えています。可処分時間・所得のない人ほど、各分野における関心・行動の度合いが低いと考えています。関心・行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。					
49	自由回答(文化・読書・スポーツ)						○	各分野に対する区民の意見を把握し、必要に応じて計画内容を検討するための資料とします。					

令和7年度 アンケート調査項目一覧(小5・中1用)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 4 コロナ禍の影響を把握する

(1)小5・中1向け調査

①保護者向け調査

	性・年代等の基本属性について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案				
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
1	回答者自身の性別		○	○		分析軸として活用します。					
2	回答者自身の年代(5歳年齢階級)		○	○		分析軸として活用します。					
3	お子さんとの関係		○	○		分析軸として活用します。					
	あなたの文化・読書・スポーツに対する関心・行動の度合い	1	2	3	4	ねらい					
4	文化・読書・スポーツの関心の有無		○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○			
5	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
6	最近1ヶ月間における読書活動の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。				○	選択肢7を変更 「本などの紹介動画や通販サイトをみた」
7	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
8	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度		○	○		運動・スポーツの実施頻度について把握します。					
9	可処分時間・所得の程度(回答者自身・お子さんのため)	○	○	○		分析軸として活用します。特に、保護者の可処分時間・所得のない家庭の子どもほど、各分野における関心・行動の					

					度合いが低いと考えています。関心・行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。				
10	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について		○		○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。			
11	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について		○		○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。			
	あなたのお子さんのことについて	1	2	3	4	ねらい			
12	お子さんの性別		○	○		分析軸として活用します。			
13	お子さんの対処能力のあてはまり	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、対処能力のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。			
14	お子さんの学校以外での文化的な活動の有無	○		○		活動している子どもほど、対処能力や自己肯定感のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。			
15	お子さんが文化・読書・スポーツを楽しむことで得られるもの	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い保護者ほど、各分野を楽しむことで子どもが得られるものに対して肯定的な回答が多いと考えています。			
	お子さんの小学校入学直前1年間の様子について	1	2	3	4	ねらい			
16	文化・読書・スポーツの関心のうち、お子さんが好きだったこと		○	○		未就学児の頃について、各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。			
17	お子さんの文化芸術的な活動の有無	○	○	○		未就学児の頃について、文化芸術活動の実態を把握します。			
18	お子さんが本を読んでいたかどうか	○	○	○		未就学児の頃について、読書活動の実態を把握します。			
19	お子さんにおける本を読む以外の読書に関わる活動の有無	○	○	○		未就学児の頃について、運動・スポーツ活動の実態を把握します。			

20	お子さんの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○	未就学児の頃について、運動・スポーツの実施頻度について把握します。					
21	(お子さんに文化・読書・スポーツをさせなかった人のみ)させなかった理由			○	未就学児に対して、関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					

②児童・生徒向け調査

	3分野への関心について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案				
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
1	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
	文化芸術について	1	2	3	4						
2	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
3	(鑑賞していない人のみ)鑑賞するようになるきっかけ		○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
	読書について	1	2	3	4						
4	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○		読書における関心・行動の度合いを把握するために活用します。				○	①選択肢7を変更 「9. 1～7のことをしようと思わなかった」 ②選択肢を追加 「7. 本などの紹介動画や通販サイトをみた」 「8. 1～7のことをしたかったが、できなかった」
5	(本を読んだ人のみ)読書の方法		○			読書の仕方について把握します。		○			
6	(本を読まなかった人のみ)本を読むようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。		○			

7	電子書籍を活用した頻度		○			電子書籍を活用した頻度について把握します。		○			
8	学校の図書館・図書室に行く頻度			○		学校の図書館・図書室の利用状況を把握し、利用していない子どもがどのくらいいるのかを把握します。		○			
9	(学校図書館に行く人のみ) 学校の図書館・図書室に行く目的			○		学校の図書館・図書室の利用目的を把握し、利用を促進するための施策を検討するために活用します。		○			
	スポーツについて	1	2	3	4						
10	1週間あたりの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○		運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
11	(実施していない人のみ) 実施するようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
12	スポーツ観戦の有無		○			スポーツ(観戦)における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
	自己肯定感・主観的健康観について	1	2	3	4						
13	自己肯定感・主観的健康観のあてはまり	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、自己肯定感・主観的健康観が肯定的な結果を示すと考えています。					
	あなたの日常生活について (コロナ禍での変化)	1	2	3	4	ねらい					
14	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について。		○		○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。					
15	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について。		○		○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。					